

大阪歴史博物館年報

平成30年度



大阪歴史博物館

令和元年6月

目 次

はじめに	1
展観事業	1
資料収集	6
資料のデータ整備・特別観覧・貸出し	8
教育普及事業	9
学校連携事業	11
ボランティア関連事業	11
連携事業・「大阪歴史博物館友の会」との連携.....	12
文化庁補助金による取り組み	14
広報宣伝活動	14
刊行物	14
調査研究活動	14
平成30年度入場者数	20
受嘱・派遣・視察	20
条例と規則	22
運営組織	24

はじめに

平成30年度は指定管理での運営の最終年度にあたり、館として可能な限りの施設改修を進め、館内のセキュリティシステム、情報システムの改修、常設展示の修理などを実施した。また平成31年度の地方独立行政法人化に向けて、その準備に必要な工事が館内でも行われるなど、慌ただしい一年となった。

近年増加傾向であった外国人入館者数は、平成30年度は韓国からの来館者を中心に減少に転じ、総入館者数も平成29年度を下回ることとなった。ただ、近年の傾向と同様に、全入館者数に対する外国人入館者数は高い比率を占めており、こうした状況に対応していくため、ピクトグラムを用いた電照表示、デジタルサイネージを導入するなど、エントランス周辺の案内表示改善の取り組みを進めた。

特別展については、「NHK大河ドラマ特別展 西郷どん」では多くの方に来場いただき、また独自企画の2つの特別展「100周年記念 大阪の米騒動と方面委員の誕生」、「はにわ大行進—長原古墳群と長原遺跡—」では学芸員の研究成果を活かした内容で高い評価をいただいた。また特別企画展「なにわ人物誌 堀田龍之助—幕末・近代の大阪に生きた博物家—」は、これまで十分に活用できていなかった館蔵品を活かすための研究作業が結実した成果となった。

令和という時代に入り、いよいよ地方独立行政法人化という運営形態の大転換を迎える。運営がどのように変わろうとも、これまでと同様に博物館としての使命を果たし、来館者の皆様へ質の高いサービスを提供できるよう努力してまいりたい。

平成30年6月に、建築担当学芸員として活躍してきた、酒井一光主任学芸員が現職のまま亡くなった。当館にとってかけがえのない人材の喪失であり、忘れえぬ年となった。

大阪歴史博物館

展観事業

常設展示

●10階：古代フロア

「難波宮の時代」ハイライトコースでは、奈良時代の後期難波宮大極殿を実寸大で再現するとともに、宮廷儀礼の再現映像を上映している。また映像の合間には、展望窓から実際の史跡公園を展望することができる。実物資料展示では、国の重要文化財に指定されている5世紀の船形埴輪や難波宮跡出土の遺物を展示している。

●9階：中世近世フロア

「大坂本願寺の時代」では中世大阪の町の様子を、大坂本願寺御影堂や町並みの復元模型、実物資料などから紹介している。「天下の台所の時代」ハイライトコースでは、江戸時代の大坂の景観を、中之島の蔵屋敷や船場の町並み、長堀の住友銅吹所、道頓堀の角の芝居といった復元模型や、壁面のグラフィックにより紹介している。実物資料展示では、大坂の町・産業・芸能・学問などに関する資料を紹介している。

●8階：「歴史を掘る」フロア・特集展示室

「歴史を掘る」フロアでは発掘現場の再現を行い、ワークシートやパズルなど、考古学について体験的に学べる場を提供している。特集展示室では、館蔵品のコレクション展示や大阪に関するテーマ展示などのミニ企画展を、1～2ヵ月程度の期間で実施している。

●7階：近代現代フロア

「大大阪の時代」ハイライトコースでは、近代都市・大阪の諸様相を、原寸大で再現した公設市場・町工場・「心ぶら」などから紹介している。実物資料展示では、政治・経済・くらし・文化に関するさまざまな資料を多方面から紹介している。

●難波宮跡 遺跡展示

博物館・NHK大阪放送会館の敷地には、前期難波宮の大規模な倉庫群（内裏西方官衙）があった。建物の地下には、発掘調査で明らかになった倉庫や塀などの遺構が保存されている。また博物館の敷地南側は遺跡公園として整備されており、発掘調査で見つかった古墳時代の大型倉庫群16棟のうち1棟が復元展示されている。

●タイムカプセルEXPO'70

昭和45年（1970）日本万国博覧会が開催された際、毎日新聞社と松下電器産業（現パナソニック）により、当時の生活・文化を代表する2,098点の品々を収納したタイムカプセルを、大阪城天守閣前に埋設する事業が実施された。現地には2基が埋設されているが、当博物館の1階北東のエスカレーター奥に、同型品を展示している。

常設展示更新の状況

階	コーナー	内容	展示期間
10	特設コーナー	長原206号墳～地下に眠る長原古墳群の一例～	6月13日～8月20日
10	特設コーナー	後期難波宮の鴟尾	8月22日～11月5日
10	特設コーナー	先史古代のシーフード	11月7日～1月21日
10	特設コーナー	長原遺跡で見つかった古代の農具	1月23日～
10	古代難波の序章	難波宮跡下層出土の家形石棺片	1月9日～3月25日
10	難波京の風景	「食」に関する墨書土器	10月17日～
9	天下一の都市	豊臣期大坂の陶磁器	1月30日～5月13日
9	まちの生活	天文図・世界図屏風	5月30日～7月23日
9	まちの生活	朝鮮通信使	8月1日～9月17日
9	まちの生活	大岡春卜 龍虎図屏風	9月19日～11月12日
9	まちの生活	町屋から出土した陶磁器	1月30日～3月4日
9	学問と芸術	夏の絵画－大坂ゆかりの作品	6月27日～10月1日
9	学問と芸術	秋の絵画－大坂ゆかりの作品	10月3日～12月10日
9	学問と芸術	冬から早春の絵画－大坂ゆかりの作品	12月12日～4月8日
9	学問と芸術	上方役者絵貼交帖（展示替えあり）	6月27日～2月4日
9	学問と芸術	蘭学と西洋医学	2月6日～
9	信仰する	「浪花百景 歌川国貞ほか」より「浜村鬼子母神」「崇禪寺馬場」	6月27日～12月10日
9	信仰する	大阪府下の神社所蔵の刀剣	8月22日～12月10日
9	信仰する	都市の巡礼	12月12日～
9	幕末・維新の大坂	御陰参りとええじゃないか	4月19日～3月18日
9	幕末・維新の大坂	大塩平八郎の乱	3月20日～
9	武士の支配・町人の自治	町の取り決めと火消し	3月20日～
9	水の都	和歌に見る橋	3月27日～
8	特集展示廊下側	陶磁器に描かれた大阪風景	5月9日～6月25日
7	近代都市の建設	大阪新歌舞伎座の建築	4月18日～
7	写真パネルコーナー	村野建築がある風景	4月18日～
7	美術工芸の諸相	近年寄贈された藪 明山作品	5月16日～9月17日
7	美術工芸の諸相	大阪に関わりの深いやきもの 鹿背山焼	5月30日～10月22日
7	美術工芸の諸相	大阪の刀剣と金工	6月13日～8月13日
7	美術工芸の諸相	橋本忠之印版手コレクション	10月24日～
7	美術工芸の諸相	近年寄贈された服飾品	9月19日～11月26日
7	美術工芸の諸相	近代大阪の工芸	11月28日～
7	美術工芸の諸相	現代大阪の刀剣と刀装具（2018年夏）	8月22日～10月1日
7	美術工芸の諸相	現代大阪の刀剣と刀装具（2018年秋冬）	10月3日～3月4日
7	美術工芸の諸相	現代大阪の刀剣と刀装具（2019年春）	3月6日～
7	都市の民間信仰	住吉土人形と市内の小絵馬	7月25日～10月22日
7	都市の民間信仰	河内楽山土人形	10月24日～12月24日
7	都市の民間信仰	昭和初期の趣味家の宝船	12月26日～3月25日
7	都市の民間信仰	小絵馬と郷土玩具	3月27日～
7	上方芸能の展開	大阪の演芸	6月23日～
7	上方芸能の展開	玩辞楼十二曲屏風	9月17日～
7	祭り与人びと	御饗神事	12月12日～
7	引札と広告	諸商の引札	8月29日～12月27日
7	引札と広告	新年の引札	1月5日～3月18日
7	引札と広告	節分丸かぶり寿司チラシ	1月30日～3月18日
7	引札と広告	汽船会社等の引札	3月20日～
7	鴻池家の生活用具	鴻池家の生活用具	7月25日～12月24日
7	鴻池家の生活用具	鴻池家の生活用具	12月26日～
7	映像コーナー	戦時下の防空演習「守れ我等が大空」	4月11日～12月27日
7	映像コーナー	高津宮の初詣	1月5日～

特集展示

8階の特集展示室では、常設展の内容を掘り下げたものや季節に合わせた企画などを順次開催している。

●新収品お披露目展

会 期：平成30年2月28日～5月7日

出 品 数：約40件

担 当：内藤直子

近年新たに館藏品となった数多くの寄贈品の中から未公開のものを中心に、約40件を紹介した。(詳細は平成29年度年報を参照)

●大阪を襲った淀川大洪水

会 期：平成30年5月9日～6月25日

出 品 数：30件

担 当：伊藤廣之

明治18年(1885)の淀川大洪水は、享和2年(1802)と並ぶ大規模な洪水となり、6月中旬から7月初旬にかけての2度の洪水によって、大阪府の北河内・中河内から大阪市全域(上町台地を除く)が浸水した。

この洪水では、大川に架かる川崎橋・天満橋・天神橋・難波橋(南半分)・淀屋橋・安治川橋などが倒壊・流失し、家屋の浸水72,509戸、流失1,749戸、被災者は304,199人となり、この豪雨災害をきっかけとして淀川の大がかりな治水工事がおこなわれることになった。本展では、当館所蔵の明治18年の淀川大洪水を写した最初期の災害写真や、被災状況を伝える瓦版などを中心に、享和2年の淀川の洪水に関する資料も展示し、明治18年の淀川大洪水を振り返った。

関連行事として5月19日、6月2日、6月16日に展示解説を実施した。

●天保の光と陰

会 期：平成30年6月27日～8月20日

出 品 数：23件37点

担 当：木土博成

明治維新150周年ということで、各地でイベントが行われ、当館でも関連して特別展「西郷どん」が開催された。本展は、「西郷どん」展との繋がりを意識しながら、明治維新の起点とされる天保期について、その歴史的意義を紹介した。具体的には、天保期の世相、薩摩藩の天保改革、大塩平八郎の乱、の三章に分け、飢饉が続く世相が乱れるなか、薩摩藩は莫大な借銀を大坂で強引に整理し、のちに雄藩として飛躍する足がかりを築いたこと、大塩の乱が大坂の町に打撃を与え、幕府の権威失墜にも繋がったことなど、関連史料約37点を展示し、天保期が持った光と陰の両面を取り上げた。

関連行事として7月1日に展示解説を実施した。8月19日の記念講演会は、崎山健文氏(鹿児島県歴史資料センター黎明館学芸専門員)「薩摩藩の天保改革と島津斉宣・斉興」、木土「天保期の琉球使節」で開催した。

●発掘された古代・中世の住吉

会 期：平成30年8月22日～10月29日

出 品 数：180件

担 当：村元健一

かつて住吉大社周辺には寺院が数多く存在した。こうした神仏混淆の名残りは今なお住吉の各所に残っているが、発掘調査によってもその姿が分かりつつある。本展では近年の住吉での発掘調査成果を中心に、古代から中世の住吉の歴史を紹介した。

住吉の繁栄は住吉津と密接に関わる。港の調査事例として榎津に関連する成果を紹介した。また中世の津守氏居館跡、住吉神宮寺跡、莊嚴浄土寺境内遺跡の出土品、さらに住吉周辺地域の成果として注目される中世の鋳物師関係の資料を展示した。

関連行事として展示解説を9月8日、10月8日・27日に実施した。

●新発見！なにわの考古学2018

会 期：平成30年10月31日～平成31年1月21日

出 品 数：約300点

担 当：杉本厚典

共 催：(公財)大阪市博物館協会大阪文化財研究所

平成29年度の大阪文化財研究所による大阪市内の主要な発掘調査成果について紹介した。弥生時代中期の壺・甕(平野区喜連西遺跡)、豊臣期の金箔押瓦(中央区大坂城跡)、朝鮮通信使との関連がうかがえる17世紀前～中葉の朝鮮半島の白磁(中央区大坂城下町跡)、梅田墓に副葬された土人形(北区大深町遺跡)等、約300点の出土品を、発掘現場の写真パネルとともに紹介した。

関連行事として講演会「大阪の歴史を掘る2018」を11月25日に開催し、展示解説を平成30年11月11日、12月9日・22日、平成31年1月12日に実施した。

●森の宮遺跡と河内地方の縄文土器

会 期：平成31年1月23日～3月18日

出 品 数：73件

担 当：松尾信裕

大阪市中央区に所在する森の宮遺跡で行われた4次に亘る発掘調査で出土した縄文土器を中心に、館蔵の「片山長三コレクション」から、枚方市・交野市・四條畷市など河内地方の縄文時代遺跡出土の縄文土器を展示した。また、この展示では寝屋川市・東大阪市・八尾市・藤井寺市の縄文時代遺跡から出土している形の分かる縄文土器を借用した。

関連行事として期間中の1月27日と3月3日には展示解説を行い、2月17日には関西縄文文化研究会と共催で「河内地域の縄文時代遺跡と縄文土器」と題したシンポジウムを開催した。

●なにわ人物誌 三好木屑

会 期：平成31年3月20日～令和元年5月6日

出 品 数：53件63点(パネル展示を含む)

担 当：中野朋子

三好木屑(1874～1942)は近代大阪を代表する指物師のひとり、武者小路千家官休庵家元・愈好斎聴松、大阪の両替商・平瀬露香らの指導のもと本業である指物の製作に勤しむほかに「余技」として多彩な漆芸作品の製作を行った。本展では、木屑の製作した作品53件によ

て、木屑の人物像や茶の湯をめぐる創作活動について紹介した。

関連行事として3月30日に展示解説を実施した。

特別企画展

●なにわ人物誌 堀田龍之助―幕末・近代の大阪に生きた博物家―

会 期：平成30年4月25日～
6月18日

*5月1日は開館、
6月18日は地震のため臨時閉館。

出 品 数：150点

担 当：加藤俊吾、李陽浩、
安岡早穂、松尾信裕

主 催：大阪歴史博物館

協 力：大阪市立自然史博物館

特別協力：東京国立博物館



堀田龍之助（1819-1888）は、博物学の素養を蓄えた人物として、幕末・明治の大阪に生きた人物である。現在大阪歴史博物館にはこの堀田が所蔵していた博物学関係の資料（堀田コレクション）が収められており、当時の博物学を知る上で貴重なものも多い。本展覧会はこの堀田龍之助の旧蔵資料を通じて、大阪における博物学・博物館史の一端を紹介する目的で企画・開催された。

主な展示物として、若い頃に交流を深めた和歌山の博物学者・畔田翠山関係資料や、京都の山本榕室・溪愚兄弟との交流資料、さらに琵琶湖の水棲生物が描かれた『湖魚奇観』など、多くのビジュアル資料を展示した。また、当コレクションには大阪博物場の関係資料も含まれており、これらを紹介することができた。

本展覧会開催にあたっては、大阪市立自然史博物館からは展示資料の長期事前調査やギャラリートークなどで協力を得た。また、関係資料を所蔵していた東京国立博物館からは「東京国立博物館収蔵品貸与促進事業」を活用した出品許可を得ることができた。

◇関連イベント

- ・ギャラリートーク（2回）

①5月5日

担当：佐久間大輔氏（大阪市立自然史博物館）

参加者数：46人

②6月9日

担当：加藤俊吾、参加者数：35人

特別展

●第64回特別展

明治維新150年 NHK大河ドラマ展 西郷どん

会 期：平成30年7月28日～
9月17日

開館日数：46日

入場者数：42,754人

出 品 数：186件

図 録：A4変形判、264頁

担 当：豆谷浩之、八木滋、
内藤直子、大澤研一

主 催：大阪歴史博物館、
NHK大阪放送局、NHKプラネット近畿、読売新聞社

協 賛：NISSHA、ハウス食品グループ、ロート製薬、清水建設、大和ハウス工業、非破壊検査



本展は、2018年NHK大河ドラマ「西郷どん」の主人公、西郷隆盛にスポットをあて、薩摩藩を中心とした幕末・明治維新の動向にからめて、その生涯を紹介した。西郷隆盛は、肖像写真が一枚も残っておらず、その生涯は謎に満ちている。薩摩（鹿児島県）の下級藩士の家に生まれた西郷隆盛（小吉、吉之助）は、薩摩藩主の島津斉彬に目を留められた西郷は、斉彬の密命を担い江戸へ京へと奔走し、薩摩のキーパーソンとなっていった。3度の結婚、2度の島流しを経験する中で、下級武士に過ぎなかった素朴な男は、勝海舟、坂本龍馬ら盟友と出会い、揺るぎなき「革命家」へと覚醒し、徳川幕府を転覆させる。類まれな「勇氣と実行力」で明治維新を成し遂げた西郷だが、最後は明治新政府と闘い、命を散らすことになった。

本展では、西郷の面影をもっともよく表現していると評価される「石川静正筆 西郷隆盛肖像画」をはじめ、西郷と彼をとりまく人物や彼の生きた時代に関わる資料などを公開し、多くの関心を集めた。

◇おもな展示資料

- ・石川静正筆 西郷隆盛肖像画 個人蔵
- ・西郷隆盛筆「敬天愛人」 鹿児島市立美術館蔵
- ・討幕の密勅 鹿児島県歴史資料センター黎明館蔵（玉里島津家資料）
- ・島津斉彬所用大鎧 京都国立博物館蔵

◇関連イベント

- ・オープニングイベント 青木崇高氏（俳優）・櫻井賢氏（NHK）7月28日
- ・講演会 原口泉氏（志學館大学教授）「明治維新の原動力となった薩摩藩と西郷隆盛」8月5日
- ・展示のみどころ解説 8月4日、9月1日

●第65回特別展

100周年記念 大阪の米騒動と方面委員の誕生

会 期：平成30年10月3日～

12月3日

開館日数：54日

入場者数：27,011名

出 品 数：359点

図 録：A4判、192頁

担 当：飯田直樹、木土博成、
澤井浩一

主 催：大阪歴史博物館



この展覧会は、米騒動発生と方面委員創設から100年にあたる記念すべき年に大阪で方面委員が創設された歴史的意義を明らかにするために開催したものである。そのためまず、米騒動前から事業を始めていた様々な社会事業施設の活動について、方面委員制度との違いを意識しながら紹介した。次いで、大阪での米騒動の発生から収束までの過程を、発生時期や発生場所などに注目しながら明らかにした。最後に、創設期方面委員による活動の実態について公文書や方面委員の遺品などを紹介しながら明らかにした。

以上のような展示内容を通して本展では、方面委員制度が従来の社会事業と異なり、民間の委員による日常的な調査活動を通して生活困窮者の生活事情に柔軟に対応するよう設計された新しい福祉制度であったことを示した。また、当時の人々が米騒動に参加した事情に思いを寄せ、彼らが大阪という都市社会で日々どのような暮らしをしていたのか、理解してもらおう機会とすることを目指した。

◇おもな展示資料

大阪米騒動図 大正7年(1918) 大阪市史編纂所蔵
村嶋歸之「給与部もある細民学校」昭和35年(1960)
村嶋智恵子氏蔵
方面委員の設置に就て 大正7年(1918) 桃山学院史料室蔵

◇関連イベント

- ・講演会、井本三夫氏(米騒動史研究会)「米騒動像の転換—大戦後デモクラシーへの市民戦期—」10月7日、永岡正己氏(日本福祉大学客員教授・名誉教授)「大阪における社会事業の成立と方面委員」11月3日
- ・映画会「橋のない川 第二部」(今井正監督、1970年) 11月23日
- ・展示解説 10月6日、11月4日、11月30日

●第66回特別展

はにわ大行進—長原古墳群と長原遺跡—

会 期：平成31年1月26日～

3月17日

開館日数：44日

入場者数：17,858人

出 品 数：400件816点

図 録：A4版、96頁

担 当：松本百合子、寺井誠、
豆谷浩之

主 催：大阪歴史博物館、
大阪文化財研究所

助 成：日本芸術文化振興会



大阪市の南部には、旧石器時代から知られる大複合遺跡である長原遺跡が広がっている。発掘調査は昭和49年(1974年)から始まり、古墳時代では200基を越す長原古墳群や、多彩なモノ作りを行った集落(居住域)のようすが明らかになってきた。本展ではその墓葬・生活・生産に注目し、大阪の古墳時代を展観した。

第1章では古市古墳群と同時期に営まれた長原古墳群を特徴づける形象埴輪や円筒埴輪を一堂に会し、長原高廻り1号・2号墳の船形埴輪【国指定重要文化財】を中心に、近畿地方で出土した主な船形埴輪も展示した。第2章では古墳時代中期から後期(4世紀後半～6世紀)にかけて形成された長原古墳群の全貌を4期に分けて紹介し、その消長を示した。第3章では長原古墳群の母体となった集落跡である長原遺跡を紹介し、渡来系遺物の存在などから国際交流の盛んな大阪の原型が、すでに1500年前の長原遺跡に見て取れることを示した。

◇おもな展示資料

- ・国指定重要文化財 船形埴輪 長原高廻り1号・2号墳(長原169号・170号墳)出土 文化庁蔵
- ・大阪市指定文化財 盾形埴輪 長原40号墳出土 大阪市教育委員会蔵
- ・大阪市指定文化財 馬具 長原130号墳(長原七ノ坪古墳)出土 大阪市教育委員会蔵

◇関連イベント

- ・展示解説 2月2日、2月16日、3月2日
- ・記念講演会「発掘45周年 長原古墳群と長原遺跡」 「集落から探る長原古墳群の被葬者像」大庭重信(大阪文化財研究所学芸員)、「長原古墳群と政権」高橋工(大阪文化財研究所学芸員) 2月23日

資料収集

平成30年度は、寄贈によって新たに67件1,130点の館蔵品を加えた。内容は一覧の通りである。これらの収集資料にあたっては、外部に依頼した委員による資料収集委員会を開催して収集審査を行った。

●平成30年度の収蔵資料点数

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	162	0	0	162
美術	957	0	0	957
考古	0	0	0	0
民俗	0	0	0	0
芸能	8	0	0	8
建築	3	0	0	3
	1,130	0	0	1,130

●館蔵品総点数（平成31年3月31日現在）

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	81,412	9,143	86	90,641
美術	9,094	1,648	3	10,745
考古	7,025	4,765	6,178	17,968
民俗	4,837	2,485	2	7,324
芸能	10,735	1,029	3	11,767
建築	5,972	0	27	5,999
	119,075	19,070	6,299	144,444

燻蒸

博物館の新規受入資料に対する各種害虫及びカビの駆除のために、燻蒸庫燻蒸を7月、12月、2月の計3回実施した。また、6月から7月に収蔵資料の保全のために、収蔵庫内にて生物（歩行・飛翔虫）の生息状況並びに空中浮遊・付着菌類の捕獲・採集調査と目視調査を実施した。

大阪歴史博物館資料収集方針

大阪は、日本の歴史のなかで、古代から現代にいたるまで重要な役割を果たしてきた都市である。難波宮の宮殿が営まれた古代、大坂本願寺の寺内町がつくられた中世、天下の台所として繁栄した近世、そして工業都市として発展した近代・現代と多様な展開をみせた。

大阪歴史博物館は、このような「都市おおさか」の歴史を紹介する博物館であり、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民に紹介し、理解を深めることを事業運営の基本方針としている。こうした趣旨に沿った資料収集は、失われゆく資料の保存・研究の観点を含めて重要なものである。よって、以下の条項に基づき博物館資料を収集する。

記

1. 難波宮とその研究史を理解する上で重要な資料を収集する。
2. 大阪の歴史と文化の発展を理解する上で重要な有形文化財、およびその理解を高める比較資料を収集する。
3. 大阪にとって芸術上価値の高い資料、およびその理解を高める比較資料を収集する。
4. 大阪に暮らす人々の生活の推移を理解するために必要な有形・無形文化財を収集する。
5. 大阪の景観、人物、無形文化財等の写真、映像などの資料を収集する。

新収館蔵資料紹介

●「松竹梅に亀鶴図襖紗 森周峰筆」

木村和宏氏寄贈

大坂の絵師森周峰（1738～1823）が松竹梅に鶴亀を描いた襖紗。淡い彩色が施される。松の幹は輪郭線を用いず円山派風の表現を取る一方、岩には濃い輪郭線や斧劈皴と呼ばれる描法で岩の面を描くなど、狩野派風の表現も見られる。款記より没年前年の作と知られる。



新収館蔵資料一覧

寄贈

●歴史

◇蘆田雅子氏寄贈資料

旅行証明書 2 通

◇武田美津子氏寄贈資料

印章類 51 点

焼印 1 本

やすり 1 本

丸棒 1 本

金こて 1 本

瓦片 1 点

丸瓦 1 点

鏝 1 点

◇大門康郎氏寄贈資料

北の大火絵葉書 9 枚

小学生徒瀬戸内海見学会絵葉書 1 枚

大正大典記念絵葉書 9 枚

輜重兵第四大隊創立記念絵葉書 1 枚

◇岡村富夫氏寄贈資料

文政丁銀 1 点

天保丁銀 1 点

安政丁銀 1 点

◇熊田聖三氏寄贈資料

熊田家文書 53 点

◇小菅真知子氏寄贈資料

隆平橋親柱 1 基

◇藤枝宏治氏寄贈資料

南俳句会句集 16 冊

南俳句会地巻 1 冊

浪々 6 冊

巴吟社五周年記念俳句大会選句集 1 冊

浪速俳壇ともゑ句集 1 冊

●美術

◇武田美津子氏寄贈資料

吉向焼隅切一段重 1 合

◇勝矢寛雄氏寄贈資料

鐺 450 枚

小柄 131 本

筭 5 本

目貫 21 組

三所物 5 組

揃金具（二所物） 13 組

揃金具（四所物） 1 組

縁頭 81 組

縁 25 個

頭 6 個

小刀 6 本

球飾り 1 個

ヤニ型 182 個

◇木村和宏氏寄贈資料

松竹梅に亀鶴図袱紗 森周峰筆 1 枚

松竹梅図袱紗 森周峰筆 1 枚

◇坂本宏子氏寄贈資料

花見どき 豊園筆 1 幅

◇玉置朝子氏寄贈資料

鼈甲櫛笄 3 点

菊桐蒔絵櫛笄 2 点

草花文螺鈿蒔絵櫛 1 枚

花鳥図蒔絵櫛 1 枚

鼈甲櫛 1 枚

撫子図洋簪 1 本

鼈甲笄 1 本

天秤笄 1 本

鼈甲櫛 2 枚

鼈甲簪 1 本

菊図簪 1 本

手柄鹿の子 5 点

鹿の子半襟 1 点

◇渡邊正憲氏寄贈資料

檜彫彩色根付「韓信股潜」 無銘 1 個

木彫面根付「武悪」 銘 出目右満 1 個

木彫根付「麒麟」 銘 為隆 1 個

木彫根付「関羽」 銘 舟月 1 個

木彫根付「蝦蟇仙人」 銘 秀 1 個

●芸能

◇赤松幸子氏寄贈資料

第27回春季温習会写真帖 新中検 鶯集会 1 冊

大正11年4月

◇坂本宏子氏寄贈資料

大日如来像 1 点

不動明王像 1 点

狛犬 1 対

ルイ14世メダル 1 点

ステレオ写真 UNDERWOOD & UNDERWOOD社製 1 組

松村景文 夕顔図 1 幅

二代目榎茂都扇性 豆画帖 1 帖

●建築

◇大阪商工信用金庫寄贈資料

フェニックス・モザイク断片 3 点

館蔵品の修復

平成30年度に修復した資料は次の表の通りである（5件46点）。

名称	数量	修復概要
中村順平デザイン画等	25点	亀裂の補修・補強、マット装・額装
絵画（群鶴図屏風）	2点	全体的な補修
絵画（輿上清雅）	2点	剥離部分の接着
鴻池家旧蔵古裂	16点	折れ・しわの修復
刀剣研磨	1点	錆の除去

資料のデータ整備・特別観覧・貸出し

データ整備

●マイクロフィルム撮影

本年度は下記の館蔵資料について撮影を行った。

(1) マイクロフィルム撮影

- 堀田コレクションのうち「没食訳説 大槻磐水序写本」ほか997コマ分を撮影し、紙焼き製本およびデジタル化を行い、資料の活用を図った。

(2) 写真撮影

- 86点（美術工芸資料62点、歴史資料24点）

(3) デジタルカメラ撮影

- 堀田コレクション「堀田龍之助手帳」ほか1,943駒分を撮影し、紙焼き製本を行い、資料の活用を図った。

●図書の受入（平成31年3月31日現在）

今年度は新たに3,123件の新規登録を行った。内訳は、国内外の関係機関・個人からの寄贈2,557件、特別観覧献本50件、移管178件、購入280件、自主刊行物の登録58件であった。蔵書は当館2階の学習情報センター「なにお歴史塾」において閲覧サービスを行っている。

特別観覧

平成30年度は撮影20件（226点）、複製2件（3点）、実測2件（26点）、閲覧23件（217点）、掲載・掲出157件（497点）、放映40件（96点）、デジタルオンデマンド14件（29点）の計258件（1,094点）の特別観覧があった。

※（ ）内は資料点数。重複含む。

館蔵資料の貸出し 平成30年度に他機関に貸出した資料数は下に掲げた表の通りである（21件87点）。

申請者	数	展覧会名称	貸出期間
八尾市立歴史民俗資料館	3	特別展「豊作への祈り－大阪府内の農耕儀礼－」	平成30年4月13日～平成30年7月16日
東京藝術大学大学美術館、 鹿児島県歴史資料センター黎明館	3	特別展「西郷どん」	平成30年5月2日～平成30年11月30日
大阪市立住まいのミュージアム	22	特別展「大大阪モダニズム －片岡安の仕事と都市の文化－」	平成30年7月7日～平成30年9月16日
熊本県立美術館	1	「永青文庫展示室開設10周年記念特別展 細川ガラシャ」	平成30年7月12日～平成30年10月5日
岐阜県博物館	1	秋季特別展「信長・秀吉・家康と美濃池田家 －大御乳・池田恒興・輝政の戦い－」	平成30年8月27日～平成30年11月30日
小平市役所	1	明治150年記念特別展「彫刻コトハジメ」	平成30年8月27日～平成30年12月7日
芦屋市谷崎潤一郎記念館	1	特別展「谷崎と芦屋・『細雪』～モダンと伝統～」	平成30年9月1日～平成30年12月23日
東京ステーションギャラリー	1	「横山華山展」	平成30年9月8日～平成30年11月25日
佐賀県立名護屋城博物館	1	特別企画展「肥前名護屋－幻の巨大都市－」	平成30年9月10日～平成30年11月30日
高槻市教育委員会	3	秋季特別展「藤原鎌足と阿武山古墳」	平成30年9月18日～平成30年12月21日
鳥取県立博物館	1	企画展「土方稲嶺」	平成30年9月22日～平成30年11月25日
公益財団法人大和文華館	6	特別展「建国1100年 高麗 －金属工芸の輝きと信仰－」	平成30年9月23日～平成30年11月25日
和泉市教育委員会	2	秋季特別展「時をかける文書」	平成30年10月2日～平成30年12月21日
釜山広域市立博物館	7	「ユネスコ世界記憶遺産、通信使記憶物展」	平成30年10月8日～平成30年12月7日

申請者	数	展覧会名称	貸出期間
鹿児島県歴史資料センター黎明館	14	企画特別展「華麗なる薩摩焼 －万国博覧会の時代のきらめき－」	平成30年12月1日～平成31年3月15日
鳥根県立古代出雲歴史博物館	5	企画展「隠岐の祭礼と芸能」	平成30年12月7日～平成31年3月4日
岡山県立美術館	3	特別展「江戸の奇跡・明治の輝き －日本絵画の200年」	平成31年2月15日～令和元年5月19日
クリーブランド美術館	2	特別展「神－日本美術における神性の発見」	平成31年2月15日～令和元年7月30日
府中市美術館	2	「へそまがり日本美術 禅画からヘタウマまで」展	平成31年3月9日～令和元年5月19日
東日本大震災復興祈念 「伊藤若冲展」実行委員会	1	「東日本大震災復興祈念 伊藤若冲展」	平成31年3月12日～令和元年5月20日
公益財団法人 西宮市大谷記念美術館	7	「四条派への道 呉春を中心として」展	平成31年3月23日～令和元年5月25日

教育普及事業

講座・見学会

●なにわ歴博講座

◇第1期「近世・近代の歴史と民俗」

- 8月3日「江戸時代の漂流ものがたり」木土博成 66名
- 8月10日「大阪・京都 繁華街の空間」船越幹央 73名
- 8月17日「深江菅笠づくりの歴史と現在」伊藤廣之 84名
- 8月24日「大阪の行事と食」澤井浩一 76名

◇第2期「大阪の中世・近世・近代」

- 10月26日「大阪の中世集落」松尾信裕 110名
- 11月2日「朝鮮通信使を驚かせた大坂の川御座船－その豪華さと迎接態勢－」大澤研一 121名
- 11月9日「近世大坂の瓦生産と流通をめぐって」豆谷浩之 78名
- 11月16日「小河滋次郎と愛染園」飯田直樹 43名

◇第3期「大阪の考古学と東アジア」

- 2月8日「近世大坂近郊における魚介類の獲得と消費」安岡早穂 70名
- 2月15日「難波宮のルーツを探して③ 北魏の洛陽」村元健一 92名
- 2月22日「古代東アジア家形の世界：埴輪、土器、明器」李陽浩 61名
- 3月1日「長原遺跡と朝鮮半島」寺井誠 108名
- 3月8日「靱形埴輪－埴輪に込められた思い－」松本百合子 75名

●館長講演会

- 6月23日「古代難波の荘と物流－難波地域史の試み－」栄原永遠男 193名

●「なにわの日」講演会

- 7月29日「後期難波宮の最新発掘成果－見えてきた宮殿周辺部の構造－」高橋工（大阪文化財研究所学芸員）、「難波宮の築地塀をめぐって」李陽浩 79名

●金曜歴史講座（大阪文化財研究所と共催）

8月31日「「古都」大阪の起源－古墳時代における上町台地と奈良盆地の都市化の比較」南秀雄（大阪文化財研究所所長）214名

9月7日「大坂城下町成立の前夜～中世の町とムラ～」小田木富慈美（大阪文化財研究所学芸員）164名

10月5日「梅田墓を掘る」岡村勝行（大阪文化財研究所学芸員）191名

10月12日「マジョリカ陶器の栄枯盛衰物語」松本啓子（大阪文化財研究所学芸員）66名

10月19日「岩手の景色と黒ボク土層－3.11震災復興にかかわる発掘調査に参加して－」趙哲済（大阪文化財研究所学芸員）70名

●大阪府教職員互助組合歴史セミナー（大阪府教職員互助組合と共催）

3月3日「長原古墳群と長原遺跡」松本百合子 157名

●同志社女子大学講座「日本の食文化－その交流のあゆみと現在－」（同志社女子大学と共催）

2月16日 180名
講演1「日本人の食文化における大豆活用の多様性と栄養学的発展性」小松龍史（同志社女子大学特別任用教授）

講演2「朝鮮通信使が好んだ日本の食事」大澤研一

●古文書講座「五礼書を読む－村に伝わった儀礼の世界－」

①1月12日 木土博成 63名

②1月19日 木土博成 59名

③1月26日 木土博成 60名

④2月2日 木土博成 55名

●漢文講座「史料でたどる遣唐使」

①3月9日 前半：漢文の基礎、後半：遣唐使について 村元健一 61名

②3月16日「『新唐書』などを読む」村元健一 52名

③3月23日「『新唐書』などを読む」村元健一 47名

●考古学入門講座 なにわ考古学散歩「長原古墳群と百舌鳥・古市古墳群を歩く」

①4月21日「長原古墳群から津堂城山古墳へ」積山洋（大阪文化財研究所学芸員）・寺井誠 31名

② 4月28日「古市古墳群－大古墳群と古墳づくりのムラを巡る－」寺井誠・松本百合子 30名

③ 5月5日「百舌鳥古墳群－大阪湾を望む大古墳群を歩く－」寺井誠・村元健一 29名

● **なにわ歴博寄席2019「落語のなかのもの売り」(落語ファクトリーと共催)**

3月21日 202名

トーク:「さん風のたより」桂三風

落語:「時うどん」林家染八、「いかげや」桂福矢、「上爛屋」桂三風(落語ファクトリー)

ミニ講座:「大坂のもの売り」木土博成

● **日本刀を支える職人の世界2018**

9月12日 49名

「日本刀の研磨工程について」阿部一紀(刀剣研磨師)

「拵の変遷と白鞘」森隆浩(鞘師)

「白銀師の仕事」宮下武(白銀師)

特別展・特集展示等関連の講演会・展示解説

◇ 特別展「西郷どん」

・ プレ講座「もうすぐはじまる「西郷どん」展－展覧会を楽しむための基礎知識－」

6月30日「①近世大名島津氏のプロフィール」木土博成 81名

7月7日「②幕末の大坂と西郷隆盛」豆谷浩之 46名

7月14日「③戊辰戦記絵巻にみる鳥羽・伏見の戦い」大澤 研一 69名

・ 展示のみどころ解説 8月4日 110名、9月1日 120名

・ 「セミナー&トークショー」豆谷浩之、青木崇高(大河ドラマ「西郷どん」島津久光役)、櫻井賢(NHK制作局ドラマ番組部チーフ・プロデューサー) 7月28日 257名

・ 講演会「明治維新の原動力となった薩摩藩と西郷隆盛」原口泉(志学館大学教授、大河ドラマ「西郷どん」監修者) 8月5日 217名

◇ 特別展「100周年記念 大阪の米騒動と方面委員の誕生」

・ 展示解説 10月6日 12名、11月4日 45名、11月30日 35名

・ 講演会「米騒動像の転換－大戦後デモクラシーへの市民戦期－」井本三夫(米騒動史研究会) 10月7日 88名

・ 講演会「大阪における社会事業の成立と方面委員」永岡正己(日本福祉大学客員教授・名誉教授) 11月3日 122名

・ 映画会「橋のない川」第二部(今井正監督、1970年) 11月23日 84名

◇ 特別展「はにわ大行進－長原古墳群と長原遺跡－」

・ 記念講演会「発掘45周年 長原古墳群と長原遺跡」 2月23日 242名

「集落から探る長原古墳群の被葬者像」大庭重信(大阪文化財研究所学芸員)

「長原古墳群と政権」高橋工(大阪文化財研究所学芸員)

・ 展示解説 2月2日 32名、2月16日 42名、3月

2日 70名

◇ 特別企画展「なにわ人物誌 堀田龍之助－幕末・近代の大阪に生きた博物家－」

・ ギャラリートーク 5月5日 49名、6月9日 35名

◇ 特集展示「大阪を襲った淀川大洪水」

・ 展示解説 5月19日 22名、6月2日 18名、6月16日 8名

◇ 特集展示「天保の光と陰」

・ 展示解説 7月1日 15名

・ 関連講座「天保期の薩摩藩」8月19日 168名
「薩摩藩の天保改革と島津斉宣・斉興」崎山健文(鹿児島県歴史資料センター黎明館学芸専門員)

「天保期の琉球使節」木土博成

◇ 特集展示「発掘された古代・中世の住吉」

・ 展示解説 9月8日 15名、10月8日 25名、10月27日 20名

◇ 特集展示「新発見!なにわの考古学2018」

・ 11月25日「大阪の歴史を掘る2018」講演会 98名
「平成29年度大阪市内の発掘調査について」田中裕子(大阪市教育委員会学芸員)

「古人骨から探る巨大都市江戸の社会」谷畑美帆(明治大学文学部兼任講師)

・ 展示解説 11月11日 13名、12月9日 9名、12月22日 45名、1月12日 12名

◇ 特集展示「森の宮遺跡と河内地方の縄文土器」

・ シンポジウム「河内地域の縄文時代遺跡と縄文土器」 124名

「上町台地の縄文時代遺跡の出現と展開」松尾信裕(急病により未講)

「北河内地域の縄文時代遺跡の立地と交易」塩山則之(交野市教育委員会)

「生駒西麓地域の縄文時代遺跡の様相」菅原章太(東大阪市教育委員会)

「河内湾南岸地域の地形と縄文時代遺跡」大野薫(大阪府立狭山池博物館)

「大阪の縄文土器と縄文研究の現状」矢野健一(立命館大学文学部教授)

・ 展示解説 1月27日 18名、3月3日 29名

◇ 特集展示「なにわ人物誌 三好木屑」

・ 展示解説 3月30日 15名

● **展示解説**

・ 特別展・特別企画展に伴う展示解説・みどころ解説 計10回、参加者合計550名

・ 特集展示に伴う展示解説 計14回、参加者合計264名

・ 常設展示に伴う展示解説 計163回 1,111名

“なにわ歴博” わくわく子ども教室事業

本事業は主に小学生・中学生を対象とし、土日祝日を中心に実施した。

① 手作りおもちゃで遊ぼう

毎月第1・3土曜日(1月は第3のみ) 全23回、計1,728名

② むかしの瓦の拓本体験

4～3月第2土曜日 全12回、計343名

③ 綿くり・糸つむぎ体験

- 7月29日 93名
 ④ダンボールでつくる「夏休みジオラマ・クラフト体験
 -大阪中之島近代建築-」
 8月3日、8月4日 全6回、計19名
 ⑤考古学体験教室 7月21・27・28日 全3回、計75名
 ⑥風づくりと風あげ 1月5日 21名

難波宮遺跡探訪

当館の地下に保存されている難波宮の遺跡を、1日6回、定員40名で学芸員・ボランティアによるガイドツアーを実施している。平成30年度は合計12,852名の参加があった。また、開館時の12時30分～13時の間に5世紀の復元倉庫を公開しており、合計7,524名が見学した。

学習情報センター「なにわ歴史塾」

当館2階の無料空間内にある。映像ソフト約100件の閲覧、「昔の大阪」写真ライブラリー約7,000枚の閲覧、開架図書約6,000冊の閲覧、常駐する学芸員による学習相談に応じた。検索端末を利用した館蔵図書検索や大阪市内博物館・美術館ホームページ閲覧などのコーナーも用意し、市民の歴史学習を支援するとともに、利用案内リーフレットの作成、「なにわ歴史塾ブログ」・掲示板や新着図書コーナー・わくわく子ども教室コーナーの随時更新など、利用推進を図った。また今年度も司書を中心にして、特集展示開催などに合わせて、「大塩平八郎」(4/4～5/7)、「万葉集」(5/9～7/2)、「夏休み子ども特集」(7/4～9/3)、「大阪検定2018」(9/5～10/22)、「喫茶文化」(10/24～12/3)、「冬の特集」(12/5～4/1)の6回の特集を企画し、関連書籍を配架した。30年度の入室者数は27,998名、書庫出納件数は199件、複写利用件数は674件であった。

学校連携事業

学校教育との連携をはかるために、学校における進路学習のための職場体験学習を受け入れた。また、大学からの博物館実習・見学実習の受け入れをおこなった。

●学校職員の研修の受け入れ

例年、私立小学校の新規採用社会体験研修や学校職員研修があるが、今年度は受け入れは無かった。

●学校団体（小中学校および高等学校）への教育支援および職業体験の受け入れ

- 6月6・7日 大阪市立桜宮中学校 2名 職業体験
 7月11日 大阪府立高津高等学校 5名 職場訪問
 8月3日 開明中学校 14名 学芸員講話・見学
 8月9日 兵庫県立西宮今津高等学校 1名 職場訪問
 10月12日 大阪府立今宮高等学校 24名 学芸員講話・見学
 10月25・26日 大阪市立蒲生中学校 2名 職業体験
 11月8・9日 大阪市立東中学校 4名 職業体験
 11月14・15日 大阪市立天満中学校 2名 職業体験
 11月15・16日 大阪市立下福島中学校 1名 職業体

験

- 11月15・16日 大阪市立咲くやこの花中学校 2名 職業体験
 2月1日 大阪市立天満中学校 職業講話（派遣）
 2月7・8日 大阪市立新生野中学校 2名 職業体験

●考古学体験教室

大阪文化財研究所と連携し、「考古学体験教室」を開催した。博物館を会場とし、「瓦の拓本」「土器の接合」「AR難波宮を使った遺跡見学」を行った。実施にあたっては、小学校高学年を対象とし、希望する学校の調整には大阪市小学校社会科研究会の協力を得た。今年度は、11月12・14～16・19日の5日間で、9校464名の児童を受け入れた。

●博物館実習の受け入れ

博物館法および博物館法施行規則に基づく学芸員資格取得のための博物館実習は10大学44名を受け入れた。なお、公の施設における市民サービスの公平性および受益者負担の考え方から、実習に要する費用として1人あたり5,000円を徴収した。

- ◇8月20日～24日 大阪市立大学16名、関西学院大学4名、同志社大学2名、佛教大学2名、京都橘大学1名
 ◇8月27日～8月31日 大阪大学12名、奈良大学4名、大谷大学1名、甲南女子大学1名、立命館大学1名
 ◇見学実習は、龍谷大学、奈良大学、京都産業大学、大阪成蹊大学、大阪大学、立命館大学の6大学から合計189名を受け入れた。

ボランティア関連事業

大阪歴史博物館では、市民参加型の開かれた博物館活動の重要な事業の一つとして、ボランティアを導入している。この活動は自らの興味・経験・知識・技術などを活かして、社会に貢献する場を市民に提供するとともに、来館者へのサービスを向上させ、博物館活動を活性化させることを目的としている。平成30年度のボランティア登録者数は224名、活動日は休館日を除く毎日で306日間、のべ活動人数は6,306名であった。

●各グループの活動

- ◇遺跡探訪・歴史を掘る班
 （活動者101名、延べ活動人数2,780名）
 前期難波宮跡の管理棟遺構や倉庫跡などのガイドツアーの解説・誘導を行った。また、常設展示8階歴史を掘るコーナーで再現された遺跡を使ったプログラムの案内や説明を行った。5月4日と11月4日の「iPadで楽しむ難波宮遺跡探訪」の実施に当たっては延べ12名、5月3日と11月3日の「石組水路の一般公開」に当たっては延べ7名が協力した。
 ◇スタンプラリー・ハンズオン班
 （活動者123名 延べ活動人数3,526名）
 10・9・7階の展示場において、大阪の歴史に関するクイズを解きながら見学する子ども向けスタンプラリー

を実施している。また常設展示場内で体験型事業（ハンズオン）を来館者向けに実施しており、その運営および説明と来館者への補助を行った。ハンズオンは以下の6種類である。

10階：大宮人になってみよう！（奈良時代の官人の服を着る体験）／大極殿の土台をつくってみよう！（大極殿基壇を組み立てる立体パズル）

9階：両替商になってみよう！（江戸時代の両替商を体験）／投扇興に挑戦！（的に扇を投げて点数を競う遊び）

7階：大阪名所双六をやってみよう！（明治時代の双六で遊ぶ）／きものを着てみよう！（昔の着物を着る体験）

以上、6種類の他、2・3月には「浪花百景 貝合わせで遊ぼう！」を9階で実施した。

●研修

7月31日 「特別展 西郷どん」見学研修 107名

10月16・27日 大阪府立狭山池博物館 見学研修

99名

2月26日 「特別展 はにわ大行進」見学研修 89名

●異文化理解研修

3月17・19日 88名

中国の歴史・文化・生活に詳しい外部講師による講演を行った。

●ボランティア懇談会

ボランティアと博物館側の意思疎通を円滑にし、より良いボランティア活動を推進していく目的で、11月25日に懇談会を開催した。

●平成30年度ボランティアの次年度継続

平成30年度に活動したボランティアの任期は、平成31年3月末までの1年間であった。次年度以降の継続意思を確認したところ、活動辞退者等21名あり、203名を平成31年度の登録者とした。

連携事業・大阪歴史博物館友の会との連携

博物館群等の連携事業

大阪市の博物館・美術館等の施設が連携し、大阪の魅力をアピールするための事業を実施した。前年に引き続き（公財）大阪市博物館協会企画調整課による推進体制をとり、当館もそれに参画した。

●ミュージアム連続講座2018「形を写す、姿を描くー美術・工芸から芸能、自然史までー」

大阪市立難波市民学習センターにおいて11月1日から4週連続1日2講座（計8講座）開催し、当館からは11月1日に澤井浩一が「文楽人形のかたちと性根」と題して講演した。

●広報誌「Osaka Museums」

大阪市博物館協会が、所管する4つの博物館・美術館と大阪文化財研究所の情報を掲載した情報誌6～9号を発行し、当館も情報を掲載した。また、増刊号にも編集協力した。

●教員のための博物館の日2018

大阪市博物館協会が主催する、教員向けに大阪市内の

博物館・美術館を紹介する事業に参加した。第5回目を迎える本年は8月1日に開催し、53名の教員・教育関係者の参加があった。参加校の内訳は小学校37校、中学校14校、高等学校1校、日本語学校1校であった。

大学との連携事業

●キャンパスメンバーズ制度

大阪市博物館協会の取り組みの一環としてキャンパスメンバーズ制度を導入しており、本年度は大阪市立大学、大阪大学、大阪芸術大学、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎、大阪府教育センター附属高等学校が会員となり、当館の年間利用者は順に337名、347名、42名、35名、46名であった。

●大阪市立大学との連携

大阪市博物館協会が法人として大阪市立大学と締結している包括連携協定事業に基づき実施される、下記の事業に参加した。

市大開講の博物館関連講義へ下記学芸員を派遣した。

- 博物館経営論：大澤研一、澤井浩一
- 博物館資料保存論：豆谷浩之、寺井誠
- 博物館展示論：木土博成、李陽浩、豆谷浩之、澤井浩一、大澤研一、杉本厚典

包括連携協定企画の下記2事業に学芸員を派遣した。

- シンポジウム「豊臣大坂城研究の最前線」12月15日：「豊臣大坂城の大名屋敷・家臣団屋敷の分布」大澤研一
- 博学連携講座「幕末・維新の変革と大坂（大阪）」：11月5日「幕末・維新の基点としての天保期」木土博成、11月12日「幕末の政局と大坂蔵屋敷」豆谷浩之館独自の連携事業として下記を実施した。
- 研究プロジェクトへの派遣：大阪市立大学平成30年度戦略的研究「豊臣大坂城本丸・詰の丸の地下探査による復元研究」松尾信裕、大澤研一

●同志社女子大学との連携（共催事業）

- 2月17日 同志社女子大学講座「日本の食文化ーその交流のあゆみと現在ー」（同志社女子大学と共催）講演と博物館案内ツアー

●関西大学との連携（出版）

平成30年12月、関西大学なにわ大阪研究センターと共編で『昭和の民俗と世相②ー三村幸一が写した日本の風景』を清文堂出版より出版した。

その他の連携事業

●全国歴史民俗系博物館協議会年次集会の開催

兵庫県立歴史博物館とともに同協議会の代表幹事館として、当館を会場に、7月5日（木）に総会・幹事国会・研究集会・情報交換会、6日（金）に見学会を開催した。研究集会は「文化財・観光・地域」をテーマに117名が参加した。見学会は大雨となったが、大阪コース（大阪くらしの今昔館）に20名、姫路コース（姫路城）に1名が参加した。

●大念佛寺との共催展示

大阪市内の文化財所有者と連携し文化財の公開・活用を促進する事業の一環として、本年度も大念佛寺宝物館（平野区）と共催の「平野と大念佛寺展」を開催した。

5月1～5日、入場者1,479名。

●大阪商工会議所との連携

「大阪の名宝2019」カレンダーの製作・発行に協力し、館蔵品の写真提供、資料解説をおこなった。

共催事業

●歴史学入門講座実行委員会 第34回歴史学入門講座「近代天皇制と『史実と神話』一天皇陵・大嘗祭・歴史認識」

7月22日 126名

高木博志（京都大学人文科学研究所教授、同研究所長）

●関西アジア史談話会 発足記念講演会「古代における「倭と漢」

3月30日 78名

講演1「近年の発掘調査から見た後漢の成立」村元健一

講演2「漢委奴國王」金印真贋論争から璽印考古学へ」

石川日出志（明治大学教授）

●江戸遺跡研究会・関西近世考古学研究会・近世陶磁研究会

「近世考古学の提唱」50周年記念研究大会「近世の酒と宴」

2月9日「近世考古学の提唱」から50年－近世考古学のあゆみ－古泉弘（江戸遺跡研究会世話人代表）、「近世酒造遺構の特徴－酒の町伊丹郷町を事例に－」赤松和佳（伊丹市教育委員会）、「近世から近代の大坂の酒造業とその関連産業の分布について」杉本厚典、「第1セッション 総括」松尾信裕 146名

2月10日「江戸の「徳利」にみる酒類の流通と消費」水本和美（東京藝術大学）、「酒の運搬容器（通い徳利）について－伊丹・大坂を中心に－」赤松和佳（伊丹市教育委員会）、「近世波佐見諸窯における酒に関する磁器製品」中野雄二（波佐見町教育委員会）、「第2セッション 総括」長佐古真也（東京都埋蔵文化財センター）、「江戸の小売酒」岩淵令治（学習院女子大学）、「近世における酒宴」原田信男（国士館大学）、「アイヌ民族と酒－漆器＞陶磁器の価値観－」関根達人（弘前大学） 160名

2月11日「酒器 生産地・肥前－江戸中・後期を中心に－」大橋康二（九州陶磁文化館）、「酒器からみた江戸の飲酒事情」成瀬晃司（東京大学埋蔵文化財調査室）、「関西出土の酒器について」渡邊晴香（富田林市教育委員会）、

「第4セッション 総括」渡辺芳郎（鹿児島大学） 120名

●総合地球環境学研究所 第26回地球研地域連携セミナー（大阪）「私たちの祖先は気候変動にいかに対峙してきたか-弥生時代から近世まで-」

12月16日 207名 「日本史の背後にある気候変動の外觀」中塚武（総合地球環境学研究所）、「弥生時代から古墳時代へのムラの変化と気候変動」若林邦彦（同志社大学歴史資料館教授）、「河内平野における水田稲作の展開と気候変動」井上智博（大阪府文化財センター主査）、「近世における淀川水系の水害と地域社会」鎌谷かおる（立命館大学食マネジメント学部准教授）、「米切手相場と気候変動の関係」高槻泰郎（神戸大学経済経営研究所准教授）、パネルディスカッション「気候変動と人間社会の歴史的関係から私たちは何を学ぶべきか」パネラー 豆谷浩之

●斎宮歴史博物館 連携公開講座「斎宮跡と難波宮」

1月20日 130名

「奈良・平安時代の都城－変遷と画期－」山田邦和（同志社女子大学教授）、「古代における斎宮の変革」大川勝宏（斎宮歴史博物館調査研究課長）、「後期難波宮の成立と展開」李陽浩、ミニシンポジウム「古代における斎宮の歴史的意義」コーディネーター：榎村寛之（斎宮歴史博物館学芸普及課長）

●文化庁・大阪府教育委員会 平成30年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会 2月6～8日

●Osaka Metro「笑都大阪 落語・講演会」

6月24日 191名

講演会：「演芸と大阪のまち」澤井浩一
落語：露の団四郎・林家愛染

●南大江地域活動協議会「南大江 郷塾」

4月21日、5月15日、6月20日 大澤研一 217名

●大阪文化財研究所 関西考古学の日2018（主催：「関西考古学の日」実行委員会）

スタンプラリー・景品授与 7月21日～11月30日

「大阪歴史博物館友の会」との連携

「大阪歴史博物館友の会」は平成26年度以降、自主運営団体として活動している。当館からは役員として副会長・顧問を派遣しているほか、幹事会での助言や見学会への講師派遣を8回実施し（21頁参照）、連携をはかった。平成30年度の会員数は247名（家族会員を含む）。

平成30年度 普及事業の回数（日数）と参加者数

事業	個別事業名	回数	参加人数
教育普及事業	講座・見学会その他	29	2,404
	特別展・特集展示・常設展示、講演会・展示解説	199	3,521
	なにわ歴博 わくわく子ども教室事業	46	2,279
	石組み水路公開・AR難波宮	4	255
	難波宮遺跡探訪・復元倉庫の公開	1,824	12,852
学校連携事業	学校職員の研修の受入れ	0	0
	教育支援および職業体験	12	59
	考古学体験教室	9	464
	博物館実習・見学実習の受入れ	16	233
地域・その他連携事業	共催事業ほか	11	2,854
ボランティア関連事業	研修	4	383
合計		2,154	25,304

文化庁補助金による取り組み

平成30年度文化庁補助金事業「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」

「ミュージアムと地域を活性化させる魅力発信事業」(平成28～29年度)が終了し、新たに当館、および公益財団法人大阪国際交流センター・公益財団法人大阪観光局・公益財団法人大阪市博物館協会・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立自然史博物館・大阪文化財研究所・大阪新美術館建設準備室によるミュージアム活性化実行委員会を構成し、「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」(平成30年度から5ヵ年)について応募して採択された。

当館の今年度の取り組みとしては、「地域の魅力再発見・再活用・再発信」の一環として「大阪関連資料の掘り起し」を目的に、①資料の借用・運搬、②資料の撮影を行い、一部を特別展「100周年記念 大阪の米騒動と方面委員の誕生」において一般公開した。

広報宣伝活動

館の活動を広くPRし、来館者を誘致するため、報道各社や雑誌・情報サイト等各方面へ積極的に情報提供を行い、交通機関等への広告の掲出も行った。主要な活動は下記のとおりである。

定例広報事業

●情報提供

各方面からの問い合わせにともなう本年度の情報提供件数は、特別展・特別企画展関係が368件、特集展示関係が169件、館全体に関する内容・その他が115件であった。

●印刷物の発行

昨年度に引き続き、年間展示予定(1回)・英語版年間展示予定(1回)・なにわ歴博カレンダー(66～69号)を発行した。

その他の広報宣伝事業

●関西文化の日2018

11月17・18日の2日間、常設展示の観覧料を無料とした。計3,635名の観覧者があった。

●ホームページの公開

ホームページでは特別展・特別企画展・特集展示の開催概要や出品資料などの情報と、各展覧会に関わる講演会をはじめとした関連イベントの案内情報を逐次公開しており、本年度は当館のホームページに437,991件(累計6,139,099件)、1日平均1,200件のアクセスがあった(前年度比で約98%)。また、1日の最大接続件数は3,528件(12月2日)であった。このほかに携帯電話を対象とするモバイルサイト(上記ホームページアクセス件数に含む)や、外部サービスを利用した「なにわ歴史塾ブログ」を継続運用している。

●Twitterの公開

館の公式アカウントで展覧会、催事、トピックス等、日々の情報を発信した。ツイート数は667件、3月31日現在フォロワー数は3,960名である。

刊行物

平成30年度は下記3件を刊行した。

●『大阪歴史博物館研究紀要 第17号』

A4判152頁、平成31年3月

●『大阪歴史博物館館蔵資料集15 堀田コレクション』

A4判63頁、平成30年4月

●『共同研究成果報告書13』

A4判63頁、平成31年3月

調査研究活動

大阪歴史博物館調査研究事業

調査研究事業は、年々高まる市民の方々の歴史に対する関心に応えるため、日常的な資料調査やテーマ研究を通じて成果を蓄積し、広く都市大阪の歴史的特質の解明に関わる検討を行うことを目的としている。とくに当館においては、難波宮の置かれた古代、商工都市として栄えた近世・近代の大阪の研究を重視して、「難波宮研究」および「大阪学研究」を課題とする。今年度は共同研究においては3テーマ、基礎研究においては3テーマを実施した。また平成27年度から29年度にかけて行われた共同研究「鴻池家旧蔵名物裂についての研究」の成果を『共同研究成果報告書』13に収録した。

各研究テーマは以下の通りである。

●共同研究

◇近年の発掘成果を基にした難波宮造営前後の都市様相に関する研究

担当：榮原永遠男、李陽浩、村元健一、寺井誠

外部研究員：積山洋(大阪文化財研究所)

◇近代大阪の茶の湯工芸に関する研究

担当：中野朋子

外部研究員：上仁理恵子(和泉市久保惣記念美術館)、内田彩加(湯木美術館)、宇野千代子(堺市博物館)、藤田清(藤田美術館)、前崎信也(京都女子大学)、宮井肖佳(逸翁美術館)

◇中村順平の設計活動と建築教育に関する研究

担当：酒井一光、澤井浩一

外部研究員：青木祐介(横浜都市発展記念館)、海老名熟実、林要次

●基礎研究

◇大阪と江戸・東京との都市比較史研究

担当：豆谷浩之

◇勝矢コレクションの基礎的研究

担当：内藤直子

◇朝鮮・琉球使節に対する川御座船提供の比較史的研究

担当：木土博成

文部科学省科学研究費補助金による研究

◇基盤研究(B) 研究代表者：飯田直樹

「部落」対策事業として始まった大阪府方面委員制度の全国化とその限界についての研究

◇基盤研究(C) 研究代表者：寺井誠

渡来文化の故地についての基礎的研究－新羅・加耶的要素を中心として－

- ◇基盤研究 (C) 研究代表者：内藤直子
『塹廻花』編纂史料の整理と翻刻－幕末明治期の彫金工に関する基礎情報の集約のために
- ◇基盤研究 (C) 研究代表者：八木滋
17世紀大坂の都市開発についての研究
- ◇基盤研究 (C) 研究代表者：李 陽浩
先史～古代建築におけるゴヒラ材使用の歴史的解明
- ◇研究成果公開促進費 (学術図書)：大澤研一
『戦国・織豊期大坂の都市史研究』

個人の調査研究活動

●栄原永遠男

- 専攻分野
(1) 正倉院文書 (2) 東大寺史 (3) 古代難波地域史
- 著述
「よみがえる東大寺」(東北歴史博物館・日本経済新聞社編『東大寺と東北－復興を支えた人々の祈り』)、pp.9-16、日本経済新聞社、平成30年4月
編著『館長と学ぼう 大阪の新しい歴史Ⅱ』全265ページ、東方出版、平成30年7月
「東大寺と横江荘」(『平安のドラマ・横江荘は語る－東大寺領横江荘遺跡 立荘1200年記念シンポジウム－』)、pp.49-62、白山市教育委員会、平成30年10月
「上山寺悔過所と吉祥悔過所」(『南都仏教』100)、pp.82-115、平成30年12月
編集『東大寺要録』一(『東大寺叢書』)法蔵館、平成30年12月
「複都制」再考(『大阪歴史博物館研究紀要』17)、pp.25-40、平成31年3月
- 口頭発表
「古代難波の荘と物流－難波地域史の試み－」館長講演会5、大阪歴史博物館、平成30年6月23日
「盧舎那大仏の再生(東大寺の成立過程7)」華嚴宗教学研修会、東大寺本坊、平成30年9月14日
「古代播磨の物産」姫路市史第2巻発刊記念講演会、日本城郭資料センター、平成30年9月16日
「東大寺と横江荘」平安のドラマ・横江荘は語る－立荘1200年記念シンポジウム基調報告、白山市市民交流センター、平成30年10月14日
「安積山の歌」木簡の発見－万葉集と郡山－」「安積山の歌」木簡発見10周年記念栄原永遠男先生大講演会、安積歴史博物館、平成30年10月20日
「正倉院文書からみた和同開珎の流通」出土銭貨研究会、古代銭に関する研究会、黒川古文化研究所、平成30年11月3日
「月借銭のしくみ－古代の官営高利貸－」正倉院展講座、奈良国立博物館、平成30年11月4日
「難波宮研究の最前線」京都高等学校社会科研究会、大阪歴史博物館、平成30年11月17日
「行基と古代の大坂」第116回かいづか歴史文化セミナー、貝塚市民福祉センター、平成30年11月18日
「歌木簡」の発見と紫香楽宮 紫香楽宮跡歌木簡発見10周年記念講演会、滋賀県立陶芸の森信楽ホール、平成30年11月23日
「仏教伝来と難波堀江」大阪歴史博物館友の会、大阪

- 歴史博物館、平成30年12月22日
「東大寺盧舎那大仏と地震－東大寺と災害－」泉北教養講座古代史講座、泉が丘市民センター(南図書館)、平成31年2月22日
「難波古代史の展望」住民大学講座、平野区画整理記念会館、平成31年3月8日
「古代史から見た紀氏と大和政権」春季特別講演会、高槻市立今城塚古代歴史館、平成31年3月30日

• その他

- 「解く」(史書を訪ねて 続日本紀)読売新聞、平成30年5月15日
「古都ものがたり難波宮跡」コメント、朝日新聞、平成30年7月12日
「甲賀市東山遺跡に関するコメント」、京都新聞、平成30年10月19日
「東大寺東塔に関するコメント」、読売新聞、平成30年11月9日
「直木孝次郎さんを悼む 古代史研究の導きの星」、朝日新聞、平成31年2月20日
「岸俊男先生没後30年記念座談会「岸俊男先生の思い出を語る」(田島公・中尾芳治・泉森皎・菅谷文則・川上洋一と)、檀原考古学研究所紀要考古学論攷』42、平成31年3月22日
「歌木簡」出土 息づく万葉集(木簡と平成(中)、ぶんかのミカタ)毎日新聞、平成31年3月23日
「大阪狭山市歴史文化基本構想シンポジウム「狭山と狭山池をめぐる歴史文化」コーディネーター」、大阪狭山市立公民館、平成31年3月23日

●伊藤廣之

- 専攻分野
(1) 日本民俗学 (2) 環境民俗論 (3) 都市民俗論
- 著述
『河川漁撈の環境民俗学－淀川のフィールドから－』和泉書院、平成30年5月
「まちづくりコミュニティと歴史資源」『生活環境主義のコミュニティ分析－環境社会学のアプローチ－』ミネルヴァ書房、pp.503-518、平成30年10月
「川と人をつなぐ河川漁撈」『河川文化』第84号、日本河川協会、pp.4-7、平成30年12月
「山田家所蔵の巨椋池関係写真について」『大阪歴史博物館研究紀要』第17号、pp.55-60、平成31年3月

●大澤研一

- 専攻分野
(1) 日本中世史 (2) 都市史、宗教史
(3) 都市的集落の形成と変容過程・空間構造、経済・宗教機能、対外交流について
- 著述
『戦国織豊期大坂の都市史的研究』(単著)、思文閣出版、pp.1-560、平成31年2月
「朝鮮鷹の受容と日本の武家社会」(日文・韓文)『朝鮮通信使研究』25号、pp.167-216、平成30年6月
「戊辰戦争に想う－秋田戦争、そして鳥羽伏見の戦い－」『近畿文化』824号、pp.1-3、平成30年7月

「日本所在の通信使記憶物とその歴史的意義－大阪歴史博物館所蔵の通信使記憶物を中心として－」（日文・韓文）『UNESCO 세계기록유산 통신사기록물』、釜山博物館、pp.191-206、平成30年10月

「日本人が好奇心を寄せた通信使船」（日文・韓文）『朝鮮通信使』2018年秋号、財団法人釜山文化財団、pp.8-9、平成30年11月

「寺内町」『日本都市史・建築史事典』（分担執筆）、丸善出版、pp.122-123、平成30年11月

「資料紹介 豊後国稲葉家伝来天和度朝鮮通信使川御座船関係文書について」『大阪歴史博物館研究紀要』第17号、pp.1-15、平成31年3月

〔うえまち漫遊歴史問答阿倍野・住吉編〕

13. 阿倍野墓地（南霊園）に想う、14. 豊かな信仰と歴史の地、阿倍野、15. 南北朝の激戦地阿倍野と北畠顕家、

16. 帝塚山とともに歩んだ万代池、17. 宗教都市住吉の古景観、18. 住吉さんと皇室、19. 住吉さんのお薦めスポット①、20. 住吉さんのお薦めスポット②、21. 連載を振り返って『うえまち』No.157～165、pp.5、平成30年4月～31年1月

〔朝鮮通信使と大阪〕11. 「垂涎の的だった朝鮮の鷹1」、12. 「垂涎の的だった朝鮮の鷹2」、13. 「通信使船の目的地：大坂の港」、14. 「通信使船の大坂入港」、15. 「港から市中へ－川をさかのぼる通信使－」、16. 「難波橋から宿所へ－陸路を行く通信使－」、17. 「北御堂と通信使1－宿所の準備－」駐大阪韓国文化院HP、平成30年5月～平成31年3月

●口頭発表

「江戸時代の上方に暮らす」福井市立郷土歴史博物館 春季特別展「江戸・京・大坂と城下町福井」講演会、福井市立郷土歴史博物館、平成30年4月

「中世の大阪1 熊野街道と熊野詣」南大江郷塾、南大江会館、平成30年4月

「朝鮮鷹の受容と武家社会」2018 조선통신사학회 춘계국제학술심포지엄、釜山市役所、平成30年5月

「中世の大阪2 四天王寺の信仰と「天王寺」」南大江郷塾、南大江会館、平成30年5月

「朝鮮の鷹・馬からみた朝鮮通信使と武家社会」北九州市立自然史・歴史博物館「歴史友の会」講座、北九州市立自然史・歴史博物館、平成30年5月

「大坂と朝鮮通信使」守口市教育研究会民族教育部会、守口市立守口小学校、平成30年6月

「中世の大阪3 大坂本願寺の歴史」南大江郷塾、南大江会館、平成30年6月

「中世四天王寺の空間構造と寺院社会」Building Osaka:Urban Dynamics Across Fifteen Centuries、オレゴン大学、平成30年6月

「朝鮮通信使の普及・研究に生涯を捧げた辛基秀先生」21世紀の日韓新パートナーシップ共同宣言20周年 朝鮮通信使ユネスコ世界記憶遺産日韓共同登録記念国際学術会議「日韓文化交流の過去、現在、未来」、韓国プレスセンター、平成30年10月

「일본 소재 통신사 기록물과 그 역사적 의의－오사카 역사박물관 소장 통신사 기록물을 중심으로－」통신

사 기억물 UNESCO 세계기록유산 등재 1주년 기념 특별초청강연회、釜山博物館、平成30年10月

「大阪における通信使をめぐる近年のさまざまな動向」조선통신사 한일교류심포지엄－통신사 기록물의 가치제고와 제언－、大韓民国国立海洋博物館、平成30年10月

「中世大阪湾をめぐる交通－住吉を軸に－」すみよし歴史案内人の会、大阪市あべのボランティア活動センター、平成30年11月

「豊臣大坂城の大名屋敷・家臣団屋敷の分布」大阪市立大学包括連携事業、大阪歴史博物館、平成30年12月

「上町台地の歴史街道」2019年てんのうじ再発見セミナー、天王寺区役所、平成31年2月

「朝鮮通信使が好んだ日本の食事」同志社女子大学講座、大阪歴史博物館、平成31年2月

「信長を苦しめた大坂本願寺、そして石山合戦」シニアCITYカレッジ、エルおおさか・北御堂ミュージアム、平成31年3月

「大坂本願寺と大坂城」大阪観光ボランティアガイド協会公開講座、大阪歴史博物館、平成31年3月

●その他

「大坂の陣 最大級の陣形図」コメント、朝日新聞、平成30年4月5日

「大坂冬の陣 最大級の陣図」コメント、読売新聞、平成30年4月10日

「真田丸」徳川方の混乱生々しく」コメント、産経新聞、平成30年6月9日

「大坂の陣図 徳川家に敬意」コメント、読売新聞、平成30年7月5日

「とことんリサーチ 四ツ橋かつて浪速一の奇観」コメント、日本経済新聞、平成30年11月22日

「蓮如上人ゆかりの大坂訪ねる旅 北御堂ミュージアム」コメント、本願寺新報、平成31年1月1日

「淀川の砂 実は良質」コメント、日本経済新聞、平成31年3月4日

VOICE「大坂城三ノ丸における屋敷跡の発見」コメント、毎日放送、平成31年3月20日

「大坂城 難攻不落の要 佐竹義宣か 大名屋敷跡出土」コメント、産経新聞、平成31年3月21日

ニュースキャスター「大阪の筋」コメント、TBS、平成31年3月23日

●澤井浩一

●専門分野

- (1) 畿内村落における祭祀組織の研究
- (2) 近畿地方を中心とした芸能史研究
- (3) 大正・昭和初期の大阪における興行史の研究

●著述

『大阪の教科書 ビジュアル入門編』創元社、平成30年7月（共著）

『昭和の民俗と世相②－三村幸一が写した日本の風景』清文堂出版、平成30年12月（共編）

『初世中村鴈治郎『富士図』』『大阪松竹座寿初春大歌舞伎番付』平成31年1月

●松尾信裕

・専攻分野

- (1) 日本考古学 (2) 中近世都市遺跡の研究
- (3) 城下町をはじめとする中世から近世の都市の構造や形成過程の研究

・著述

「西日本の町屋敷」『月刊考古学ジャーナル 8』No. 715、平成30年 8月

「大阪歴史博物館が所蔵する河内地方の縄文土器」大阪歴史博物館研究紀要 第17号、平成31年 3月

・講演

「大坂冬の陣・夏の陣」高齢者大学校講座、平成30年 6月27日

「大坂・豊臣・徳川の大坂城」高齢者大学校講座、平成30年 7月11日

・調査

八尾市域の中世城館めぐり、平成30年 6月 4日

和歌山県湯浅城・藤並城巡見調査、平成30年 6月17日

千葉県佐原巡見調査、平成30年 8月16日～17日

島根県飯南町赤名瀬戸山城及び城下町巡見、平成30年 10月 2日～ 3日

島根県広瀬町広瀬城下町・雲南市三刀屋城下町巡見調査、平成30年12月10日～11日

●豆谷浩之

・専攻分野

- (1) 日本近世史、近世考古学 (2) 近世都市史
- (3) 大坂屋敷と都市建設の関係、大坂と江戸の都市比較

・著述

「西郷隆盛と大坂」NHK大河ドラマ特別展「西郷どん」図録、pp.228-231、平成30年 5月

・口頭発表

「文献史料からみた近世瓦の生産と流通～大坂の事例から～」第24回近畿ブロック埋蔵文化財研修会、平成30年11月16日

●松本百合子

・専攻分野

- (1) 考古学 (2) 仏教美術史、近世製油業の研究
- (3) 近世貿易陶磁の研究

・著述

「大阪出土的清代瓷器」(中文)『历史视野下的港城互动 首届“港通天下”国际港口文化论坛文集』科学出版社、pp.21-29、2018年 6月

「大阪市中之島蔵屋敷跡(高松藩大坂蔵屋敷跡 NX10-1)出土の貨幣形土製品」『出土銭貨』第38号、出土銭貨研究会、pp.93-103、平成30年 7月

「なにわの油火-奈良時代の灯明と油」『館長と学ぼう 大阪の新しい歴史』II 東方出版、pp.103-136、平成30年 7月

・口頭発表

「馬見古墳群を歩く一丘陵に築かれた大古墳群—」大阪歴史博物館友の会見学会、平成30年 6月17日
特別展「はにわ大行進」大阪歴史博物館友の会見学会、平成31年 2月13日

「長原古墳群と長原遺跡」大阪市教職員互助組合歴史セミナー、平成31年 3月 3日

●酒井一光

・専攻分野

- (1) 建築史 (2) 歴史的建造物に関する研究
- (3) 近代建築、寺社建築

・著述

「いまはなき大阪の名建築① 旧大阪貯蓄銀行北支店」『大阪春秋』170号、新風書房、平成30年 4月

「いまはなき大阪の名建築② 旧鴻池銀行本店」『大阪春秋』171号、新風書房、平成30年 7月

「(学界短信) 武田五一の建築標本—近代を語る材料とデザイン」『建築史学』71、建築史学会、平成30年 9月

●李 陽浩

・専攻分野

- (1) 建築史、都市史 (2) 古代東アジア建築史
- (3) 建築技法からみた難波宮の復元的研究

・著述

「国庁・郡庁建築と前期難波宮」奈良文化財研究所編『地方官衙政庁域の変遷と特質』、クバプロ、pp.133-143、平成30年12月

「大極殿と朝堂(院)」都市史学会編『日本都市史・建築史事典』(分担執筆)、丸善出版、pp.82-83、平成30年11月

「軒の出からみた前期難波宮内裏西門の屋根形式」『日本建築学会近畿支部研究報告集、計画系58』、pp.457-460、平成30年 6月

・口頭発表

「古代の築地塀と東アジア」、都城制研究会、平成31年 3月16日

「前期難波宮と古代の宮殿建築」、住民大学講座「難波の古代史」、平野区画整理記念会館、平成31年 2月 8日

「後期難波宮の成立と展開」『連携公開講座「斎宮跡と難波宮」』、大阪歴史博物館、平成31年 1月20日

「近年における慶州月城の発掘調査ノート」、都城制研究会、平成30年 9月22日

「難波宮の築地塀をめぐって」、「なにわの日」講演会、平成30年 7月29日

●加藤俊吾

・専攻分野

- (1) 考古学・考古学史 (2) 金属器生産に関わる研究
- (3) 古代～近世における鑄鏡研究

・著述

『館蔵資料集15 堀田コレクション』平成30年 4月20日発行 大阪歴史博物館

History of Museums in Osaka : Overview of the development of Osaka city and its museums, *ICOM CAMOC MUSEUMS OF CITIES REVIEW* 01/2019 ; pp.5-8 (http://network.icom.museum/fileadmin/user_upload/minisites/camoc/CAMOC_Review_No_1_2019_FV_01.pdf)

●村元健一

・専攻分野

- (1) 歴史学 (2) 古代の日中交渉
- (3) 難波宮と中国都城との比較研究

・著述

「北魏洛陽北邙墓群の構成と変遷」『東洋史研究』第77巻 第3号、pp.79-111、平成30年12月

・口頭発表

「前期・後期の難波宮を考える」シニアCITYカレッジ、大阪歴史博物館、平成30年5月9日

「西魏北周墓葬研究の諸課題」関西大学考古学研究室例会、関西大学、平成30年6月30日

「史料から見た隋使裴世清」おいな〜れ塾、フローラルセンター、平成30年7月24日

「前期難波宮と中国宮城」公開シンポジウム 今、難波宮から都城を考える、明治大学、平成30年9月29日

「考古学から見た中世の住吉と住吉行宮址」住吉大社セミナー、住吉大社、平成30年10月1日

「8世紀以前の日本古代都城の変遷と中国都城」鄴与中世紀東亜都城制研究国際学術会、中国人民大学、平成30年10月14日

「中国南北朝時代の陵寺について」佛教史学会、龍谷大学大宮学舎、平成30年12月22日

「漢から唐にかけての扁額」平城宮跡資料館、平成31年1月30日

「前期・後期の難波宮を考える」シニアCITYカレッジ、大阪歴史博物館、平成31年2月13日

「現地講義 難波宮跡と大阪歴史博物館」平成30年度住民大学講座「難波の古代史、大阪歴史博物館、平成31年2月22日

「隋唐洛陽城の成立過程－恭仁京との比較のために－」条里制・古代都市研究会大会、平城宮跡資料館、平成31年3月2日

「近年の発掘調査から見た後漢の成立」関西アジア史談話会発足記念講演会 古代における「漢と倭」、大阪歴史博物館、平成31年3月30日

●飯田直樹

・専攻分野

- (1) 歴史学 (2) 日本近現代史
- (3) 地域社会構造史(近代都市史)と社会事業史

・著述

「方面委員創設の意義と大阪の社会事業」特別展図録『100周年記念 大阪の米騒動と方面委員の誕生』、平成30年10月

・口頭発表

「近代大阪の児童問題：大阪府立修徳館を素材にして」、政治経済学・経済史学会福祉社会研究フォーラム、平成30年4月28日、東京大学

「大阪府方面委員と部落事務員：特別展準備過程で出会った資料から」、第54回大阪社会福祉史研究会、平成30年5月25日、西成市民館

「近代大阪の児童問題：大阪府立修徳館を素材にして」、政治経済学・経済史学会秋季学術大会 パネル・ディスカッションA、平成30年10月20日、一橋大学

「大阪府方面委員制度研究の現状と課題」、地域社会福祉史研究会連絡協議会 第18回研究交流会、平成30年11月17日、淑徳大学

「大阪府方面委員制度と警察社会事業」、部落問題研究所歴史研究会、平成31年3月3日、部落問題研究所
「大阪府方面委員制度研究の現状と課題について」、第58回大阪社会福祉史研究会、平成31年3月23日、大阪市社会福祉研修・情報センター

●寺井 誠

・専攻分野

- (1) 考古学 (2) 日本列島と朝鮮半島の交流史
- (3) 新羅・加耶系資料(角杯・鉄鐸・土器等)

・著述

「甌からみた渡来人の故地」『考古学ジャーナル』No.711 ニュー・サイエンス社、pp.15-19、平成30年5月
「各都道府県の動向 大阪府」『日本考古学年報』69(2016年度版) 一般社団法人日本考古学協会、pp.250-256、平成30年5月

「朝鮮半島と日本列島の鉄鐸」『一般社団法人日本考古学協会第84回総会研究発表要旨』一般社団法人日本考古学協会、pp.58-59、平成30年5月(口頭発表含む)

「白村江前後の九州・大和そして難波－搬入された新羅・百濟土器の検討から－」『館長と学ぼう 大阪の新しい歴史Ⅱ』 東方出版、pp.41-70、平成30年7月

「6～7世紀の北部九州の土器に見られる新羅・加耶的要素－特に平行文当て具痕跡について－」『第13回九州考古学会・嶺南考古学会合同考古学大会 海峡を通じた文化交流』九州考古学会・嶺南考古学会合同考古学会実行委員会、pp.270-285(韓国語翻訳含む)、平成30年8月(口頭発表含む)

『渡来文化の故地についての基礎的研究－新羅・加耶的要素を中心として－』平成28～30年度(独)日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書 大阪歴史博物館、ps.150、平成31年3月

・口頭発表

「難波と渡来人」住民大学講座 平野区画整理会館、平成31年2月1日

・調査活動

科学研究費補助金(基盤研究(C)16K03175「渡来文化の故地についての基礎的研究－新羅・加耶的要素を中心として－」)により下記の資料調査を行った(主要な調査を抜粋)。

- ・福岡県古賀市・大野城市の土器内面の当て具痕の調査、平成30年6月
- ・鳥取県・島根県での角杯・鉄鐸・土器内面の当て具痕の調査、平成30年9月
- ・韓国慶尚南道・慶尚北道での新羅・加耶関係資料(角杯・鉄鐸・土器)の調査、平成30年10月
- ・山口県での角杯・土器内面の当て具痕の調査、平成30年12月
- ・富山県・石川県での角杯・鉄鐸・鉄鐸・土器内面の当て具痕の調査、平成31年2月

●中野朋子

●専攻分野

- (1) 美術史・服飾史
- (2) 近代工芸史、近世服飾史
- (3) 近代大阪の陶業史研究、近世後期の京坂における服飾・風俗動向の研究

●著述

「明山藪政七履歴書」、『大阪歴史博物館 研究紀要』第17号、大阪歴史博物館、pp.(61)–(72)、平成31年3月
「鴻池合資会社資料室蔵「山中家寶」、『共同研究成果報告書13–鴻池家旧蔵名物裂についての研究–』、大阪歴史博物館、pp.48-55、平成31年3月

●口頭発表

「描かれた「アットゥシ」–大阪にもたらされたアイヌの衣服とその受容–」、第31回濱田青陵賞記念シンポジウム、岸和田市立文化会館、平成30年9月23日

●調査活動

近代陶磁器調査（京都国立近代美術館）、平成30年7月
近代陶磁器調査（東京国立博物館）、平成30年9月
近代陶磁器調査（鹿児島県）、平成30年12月

●木土博成

●専攻分野

- (1) 日本近世史
- (2) 政治史
- (3) 琉球

●著述

「家光政権による唐船の薩摩着岸禁止–唐船を介した人・物の出入りに注目して–」『日本歴史』842、pp39-52、平成30年7月
「朝鮮・琉球国の地位の変遷と確定–幕末「通信国」観の前史として–」『歴史評論』820、pp71-88、平成30年8月

●内藤直子

●専攻分野

- (1) 刀剣外装・刀装具の研究
- (2) 近代大阪の工芸史研究

●著述

『もっと知りたい刀剣–名刀・刀装具・刀剣書』東京美術、平成30年10月

●論文

「刀装具における片切彫の研究」『鹿島美術研究年報』第35号、公益財団法人鹿島美術財団、平成30年11月
「銀刀をめぐる考察」根津美術館紀要『此君』第10号、公益財団法人根津美術館、平成31年3月
「近代大阪の漆匠・今村洋渡と『明治天皇御轎車図』」『大阪歴史博物館研究紀要』第17号、平成31年3月

●講演

岡崎市美術博物館「名刀は語る–美しき鑑賞の歴史」展講演会「刀装具ことはじめ–美術史の視点から」平成30年6月23日

●岩佐伸一

●専攻分野

- (1) 美術史
- (2) 日本絵画史
- (3) 江戸時代後期の上方の絵画

●著述

資料紹介「木村明啓翁画像（暁鐘成像）松川半山画花家主人賛について」『大阪歴史博物館研究紀要』第17号、pp.45-54、平成31年3月

●杉本厚典

●専門分野

- (1) 日本考古学
- (2) GIS考古学、産業マップ、弥生土器・土師器の編年研究

●著述

「都市化と手工業生産」『古墳時代における都市化の実証的比較研究–大阪上町台地・博多湾岸・奈良盆地–』資料集 科学研究費基盤研究(C)16K03176（研究代表者：南秀雄）（公財）大阪市博物館協会文化財研究所、pp.55-60、平成30年12月

「近世から近代の大坂の酒造業とその関連産業の分布について」『近世の酒と宴』、pp.59-64、平成31年2月

「近世大坂における石工・石商」『大阪歴史博物館研究紀要』第17号、pp.41-63、平成31年3月

●発表

「都市化と手工業生産」『古墳時代における都市化の実証的比較研究–大阪上町台地・博多湾岸・奈良盆地–』科学研究費基盤研究(C)16K03176（研究代表者：南秀雄）（公財）大阪市博物館協会文化財研究所、平成30年12月22日

「近世から近代の大坂の酒造業とその関連産業の分布について」『近世の酒と宴』江戸遺跡研究会・関西近世考古学研究会・近世陶磁研究会、平成31年2月9日

●その他

朝日新聞夕刊、テーブルトーク、紹介、平成30年7月4日

NHK 関西ラジオワイド／旬の人・時の人「大阪に眠る歴史を発掘～新発見！なにわの考古学展開催」出演、平成31年1月11日

「大坂城跡」コメント、朝日新聞夕刊、平成31年1月19日

●八木滋

●専攻分野

- (1) 日本近世史
- (2) 流通社会史、都市史
- (3) 市場社会、両替商、都市開発

●安岡早穂

●専攻分野

- (1) 考古学
- (2) 生業史
- (3) 前近代の漁撈活動・食文化に関わる研究

●報告書

『常盤井殿町遺跡・公家町遺跡・相国寺旧境内発掘調査報告書2018』、同志社大学歴史資料館調査研究報告書第15集、pp.16-19、pp.46-47、同志社大学歴史資料館・同志社女子大学・同志社女子中学校・高等学校、平成31年3月

平成30年度大阪歴史博物館入場者数

月	H30年度 常設展					H30年度 特別展					合計	その他 入場
	有料		有料計	無料	常設展計	有料		有料計	無料	特別展計		
	一般	高・大生				一般	高・大生					
4	16,642	894	17,536	4,369	21,905	0	0	0	0	0	21,905	4,922
5	17,673	1,578	19,251	5,958	25,209	0	0	0	0	0	25,209	4,373
6	15,272	772	16,044	7,640	23,684	0	0	0	0	0	23,684	4,921
7	19,374	1,310	20,684	4,710	25,394	1,249	44	1,293	930	2,223	27,617	6,506
8	22,509	1,237	23,746	7,894	31,640	13,039	693	13,732	9,334	23,066	54,706	7,369
9	11,683	575	12,258	5,611	17,869	10,013	258	10,271	6,747	17,018	34,887	4,892
10	14,127	1,052	15,179	8,320	23,499	835	78	913	8,274	9,187	32,686	6,130
11	11,382	569	11,951	18,504	30,455	1,376	154	1,530	15,332	16,862	47,317	6,481
12	10,150	554	10,704	4,659	15,363	256	20	276	686	962	16,325	5,022
1	11,649	878	12,527	4,128	16,655	491	23	514	952	1,466	18,121	4,442
2	13,188	644	13,832	8,949	22,781	2,500	187	2,687	7,927	10,614	33,395	7,482
3	13,682	703	14,385	5,729	20,114	1,938	149	2,087	3,691	5,778	25,892	6,342
合計	177,331	10,766	188,097	86,471	274,568	31,697	1,606	33,303	53,873	87,176	361,744	68,882
										総合計	430,626	

※その他入場には、2・4階貸室利用者数、4階講堂での各種講演会・イベント参加者数、1階エントランスでの「わくわく子ども教室」参加者数などが含まれる。

受嘱・派遣・視察

受嘱

期間	内容	担当者
平成30年4月1日～平成31年3月31日	国立歴史民俗博物館共同研究員	栄原永遠男
平成29年11月1日～平成31年10月31日	吹田市立博物館協議会委員	伊藤 廣之
平成30年4月1日～平成31年3月31日	松江市史専門部会（松江城部会）専門委員	松尾 信裕
平成30年4月1日～平成31年3月31日	和泉市史編さん専門委員	大澤 研一
平成30年4月1日～平成31年3月31日	和泉市史編さん調査執筆委員	飯田 直樹
平成30年8月1日～平成32年7月31日	大阪府文化財保護審議会委員	伊藤 廣之
平成31年3月22日～平成31年3月31日	松江城調査研究委員	松尾 信裕
平成30年4月11日	平成30年現在刀職展 作刀・刀身彫・彫金の部審査委員	内藤 直子
平成30年4月19・20日	日本刀研磨外装コンクール審査会	内藤 直子
平成30年6月1日	平成30年度第1回吹田市立博物館協議会	伊藤 廣之
平成30年6月5日	九州国立博物館買取評価委員（購入文化財の価格評価）	内藤 直子
平成30年6月14日	2018年現代刀職展研磨・外装の部審査委員	内藤 直子
平成30年7月17・18日	第十三回「お守り刀展覧会」運営委員会	内藤 直子
平成30年9月2日	第1回松江市史専門部会	松尾 信裕
平成30年10月2・3日	第2回松江城部会	松尾 信裕
平成30年11月2日	第2回吹田市立博物館協会	伊藤 廣之
平成30年12月10・11日	松江城調査研究委員会（広瀬・三刀屋・三沢支城城下巡見調査）	松尾 信裕
平成30年12月18日	文化庁 文化財の買取協議委員	内藤 直子
平成30年12月21日	平成の名刀・名工展審査会	内藤 直子
平成31年1月23日	買取評価会（購入文化財の価格評価）	内藤 直子
平成31年2月8日	平成の名刀・名工展審査会	内藤 直子
平成31年3月22日	第14回松江城調査研究委員会	松尾 信裕
平成31年3月22日	第10回「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」審査委員	内藤 直子

派遣依頼対応

日付	派遣先	担当者
4/14	福井市立郷土歴史博物館	大澤 研一
4/21	喜連村史の会	豆谷 浩之
4/21	南大江地域活動協議会	大澤 研一
5/9	NPO法人シニア自然大学校	村元 健一
5/11	特定非営利法人大阪府高齢者大学校	飯田 直樹
5/12	深江地区社会福祉協議会深江まちづくり活動協議会 大阪市立深江小学校	伊藤 廣之
5/12	喜連村史の会	豆谷 浩之
5/15	南大江地域活動協議会	大澤 研一
5/15	大阪大学大学院文学研究科日本史研究室	豆谷 浩之
5/15	大阪大学大学院文学研究科日本史研究室	村元 健一
5/19	北九州市立自然史・歴史博物館	大澤 研一
5/26	大阪歴史博物館友の会	伊藤 廣之
5/26	大阪歴史博物館友の会	大澤 研一
6/6	守口市教育研究会民族教育部会	大澤 研一
6/16	喜連村史の会	豆谷 浩之
6/17	大阪歴史博物館友の会	松本百合子
6/20	南大江地域活動協議会	大澤 研一
6/23	岡崎市美術博物館	内藤 直子
6/27	NPO法人大阪府高齢者大学校	松尾 信裕
7/11	NPO法人大阪府高齢者大学校	松尾 信裕
7/12	韓国国立釜山大学校	村元 健一
7/14	喜連村史の会	豆谷 浩之
7/15	近畿文化会	大澤 研一
7/24	柏原おいな～れガイドの会	村元 健一
8/18	喜連村史の会	豆谷 浩之
8/25	花外楼	豆谷 浩之
9/9	大阪歴史博物館友の会	大澤 研一
9/11	岐阜県博物館	岩佐 伸一
9/15	喜連村史の会	豆谷 浩之
9/23	岸和田市教育委員会生涯学習部郷土文化室	中野 朋子
9/29	明治大学 研究・知財戦略機構	村元 健一
10/1	住吉大社 総務部総務課	村元 健一
10/6	大阪歴史博物館友の会	大澤 研一
10/15	岐阜県博物館	岩佐 伸一
10/17	NPO法人大阪府高齢者大学校	大澤 研一
10/20	喜連村史の会	豆谷 浩之
10/20～28	大韓民国 釜山博物館	大澤 研一
10/24	大韓民国 国立公州大学博物館	李 陽浩
11/5	公立大学法人大阪市立大学	木土 博成

日付	派遣先	担当者
11/12	公立大学法人大阪市立大学	豆谷 浩之
11/13	岐阜県博物館	岩佐 伸一
11/17	喜連村史の会	豆谷 浩之
11/25～28	大韓民国釜山博物館	木土 博成
12/12	NPO法人高齢者大学校	木土 博成
12/15	喜連村史の会	豆谷 浩之
12/18	大阪市東淀川区民会館	伊藤 廣之
1/9	NPO法人大阪府高齢者大学校	豆谷 浩之
1/12	喜連村史の会	豆谷 浩之
1/26	近畿中学校長会生徒指導専門委員会	木土 博成
1/30	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所	李 陽浩
1/30	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所	村元 健一
2/1	公益財団法人平野区画整理記念会館	寺井 誠
2/4	てんのうじ観光ボランティアガイド協議会	大澤 研一
2/8	公益財団法人平野区画整理記念会館	李 陽浩
2/13	NPO法人シニア自然大学校	村元 健一
2/16	喜連村史の会	豆谷 浩之
2/18	文化庁	内藤 直子
2/22	公益財団法人平野区画整理記念会館	村元 健一
2/28～3/1	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	内藤 直子
3/8	公益財団法人平野区画整理記念会館	栄原永遠男
3/16	NPO法人大阪観光ボランティアガイド協会	大澤 研一
3/16	喜連村史の会	豆谷 浩之
3/16	NHK制作局	大澤 研一
3/30	関西アジア史談話会	村元 健一

視察受入

日付	来訪者	人数	対応者
4/11	大韓民国国立加耶文化財研究所	3	入館のみ
8/1	シカゴ日本語弁論大会姉妹都市賞受賞者	2	入館のみ
11/11	国立台湾歴史博物館	4	澤井 浩一
11/21	茨城県立歴史館	3	松尾 信裕
11/26	チェコ・オストラバ市 [チェコ日本文化センター]	7	入館のみ
1/25	メルボルン市 (姉妹都市交流遣学生)	2	入館のみ

大学への非常勤講師派遣

大学名	科目等	担当者
大阪大学	博物館学 (概論)	加藤 俊吾
大阪芸術大学	服飾史	中野 朋子
京都橘大学	古文書学B1	木土 博成

条例と規則

○大阪歴史博物館条例

平成13年4月1日

条例第60号

大阪歴史博物館条例を公布する。

大阪歴史博物館条例

(設置)

第1条 大阪歴史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市中央区大手前4丁目に設置する。

(目的)

第2条 博物館は、大阪の歴史及び文化に関する資料の収集、保管及び展示並びにその調査研究及び普及活動を行うとともに、市民の生涯にわたる学習活動を支援することにより、市民の文化と教養の向上及び学術の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 大阪の歴史及び文化に関する実物、標本、模写、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示し、及び閲覧させること
- (2) 大阪の歴史及び文化に関する展覧会、講演会、講習会、研究会等を開催すること
- (3) 市民の生涯学習の機会を提供すること
- (4) 大阪の歴史及び文化に関する相談を受け、及び情報を提供すること
- (5) 博物館資料を貸し出すこと
- (6) 博物館資料及び遺跡に関する調査研究を行うこと
- (7) 他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関と連携し、及び協力すること
- (8) その他教育委員会が必要と認める事業

(資料の寄贈又は寄託)

第4条 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

(休館日)

第5条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）
- (2) 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、第15条の規定により博物館の管理を行うもの（以下「指定管理者」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、あらかじめ教育委員会の承認を得て、同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。

3 教育委員会は、前項の承認を行ったときは、速やかに当該承認を行った内容を公告しなければならない。

(供用時間)

第6条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 前条第2項及び第3項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第2項中「前項」とあるのは「第6条第1項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第6条第2項の規定により読み替えられた第5条第2項」と読み替えるものとする。

(使用の許可)

第7条 別表第1（省略）に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(使用許可の制限)

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用を許可してはならない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき
- (3) 管理上支障があるとき

(4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団の利益になるとき

(5) その他不相当と認めるとき

(使用許可の取消し等)

第9条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により第7条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき
- (2) 前条各号に定める事由が発生したとき
- (3) この条例に違反し、又はこの条例に基づく指示に従わないとき

(意見の聴取)

第10条 指定管理者は、必要があると認めるときは、第8条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう教育委員会に求めるものとする。

2 教育委員会は、前項の規定による求めがあったときは、第8条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。

(入館の制限)

第11条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他管理上支障があると認める者

(特別研究の許可)

第12条 博物館資料について特別の研究をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(貸出しの許可)

第13条 博物館資料の貸出しを受けようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(利用料金)

第14条 教育委員会は、指定管理者に利用料金（博物館の観覧に係る料金（以下「観覧料」という。）、博物館資料の貸出しに係る料金（以下「貸出料」という。）並びに施設及びその附属設備の使用に係る料金（以下「施設使用料」という。）をいう。以下同じ。）を当該指定管理者の収入として収受させるものとする。

2 博物館を観覧し、博物館資料の貸出し（他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関との連携及び協力に係るものを除く。）を受け、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、指定管理者に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第17条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒に係る観覧料については、この限りでない。

3 利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。

- (1) 観覧料 1人1回につき別表第2に掲げる金額
- (2) 貸出料 その都度教育委員会が定める額
- (3) 施設使用料 別表第1（省略）に掲げる金額（施設の附属設備については、教育委員会規則で定める種別に応じて教育委員会規則で定める金額）

4 日曜日、土曜日及び休日における施設の使用に係る施設使用料の額は、前項の規定による金額の2割増しの範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

5 施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）が入場料その他これに類する料金を徴収する場合における施設の使用に係る施設使用料の額は、前2項の規定による金額の5割増しの範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承

認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

6 教育委員会は、前3項の承認（貸出料の額に係るものを除く。）を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。

7 指定管理者は、教育委員会が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、利用料金を減額し、又は免除することができる。

8 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。

(1) 災害その他使用者の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき

(2) 使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、指定管理者がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき

(3) その他教育委員会が特別の事由があると認めるとき

(管理の代行)

第15条 博物館の管理については、地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」という。）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体（以下「法人等」という。）であって教育委員会が指定するものに行わせる。

(指定の申請)

第16条 教育委員会は、指定管理者を指定しようとするときは、博物館の管理を行おうとする法人等を指名し、当該法人等に対し、その旨を通知しなければならない。

2 前項の規定による通知を受けた法人等は、教育委員会規則で定めるところにより、博物館の管理に関する事業計画書その他教育委員会規則で定める書類を添付した指定管理者指定申請書を教育委員会に提出しなければならない。

(欠格条項)

第17条 次の各号のいずれかに該当する法人等は、指定管理者の指定を受けることができない。

(1) 破産者が復権を得ないもの

(2) 法第244条の2第11項の規定により本市又は他の地方公共団体から指定を取り消され、その取消しの日から2年を経過しないもの

(3) その役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）のうちに、次のいずれかに該当する者があるもの

ア 第1号に該当する者

イ 禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者

ウ 公務員で懲戒免職の処分を受け、その処分の日から2年を経過しない者

(指定管理予定者の選定)

第18条 教育委員会は、第16条第2項の規定による申請の内容が次に掲げる基準に適合すると認めるときでなければ、当該申請をした法人等を指定管理者の指定を受けるべきもの（以下「指定管理予定者」という。）として選定してはならない。

(1) 住民の平等な利用が確保されること

(2) 第2条の目的に照らし博物館の効用を十分に発揮するとともに、博物館の管理経費の縮減が図られるものであること

(3) 博物館の管理の業務を安定的に行うために必要な経理的基礎及び技術的能力を有すること

(4) 前3号に掲げるもののほか、博物館の適正な管理に支障を及ぼすおそれがないこと

(指定管理者の指定等の公告)

第19条 教育委員会は、指定管理予定者を指定管理者に指定したときは、その旨を公告しなければならない。法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は博物館の管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときも、同様とする。

(業務の範囲)

第20条 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

(1) 第3条各号に掲げる博物館の事業の実施に関すること

(2) 建物及び設備の維持保全に関すること

(3) その他博物館の管理に関すること

(施行の細目)

第21条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則（平成13年11月3日施行、告示第1155号）抄

(施行期日)

1 この条例の施行期日は、市長が定める。

(大阪市立博物館条例の廃止)

2 大阪市立博物館条例（昭和35年大阪市条例第35号）は、廃止する。

附 則（平成17年9月22日条例第108号、附則ただし書に規定する改正規定を除くその他の改正規定、平成18年4月1日施行、告示第342号）

この条例の施行期日は、市長が定める。ただし、第18条の次に6条を加える改正規定（第20条から第22条まで及び第23条前段に係る部分に限る。）は、公布の日から施行する。

附 則（平成19年12月28日条例第106号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成21年11月26日条例第129号）

1 この条例は、平成22年4月1日から施行する。ただし、第8条中第3号の次に1号を加える改正規定及び第9条の次に1条を加える改正規定は、平成22年1月1日から施行する。

2 この条例による改正後の大阪歴史博物館条例（以下「改正後の条例」という。）第14条第3項から第5項までの規定による利用料金の額の決定及びこれに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、これらの規定及び改正後の条例第14条第6項の規定の例により行うことができる。

別表第2

	区分	普通 観覧料	団体（20人 以上）観覧料
常設展示室	高等学校、高等専門学校、及びこれに準ずる教育大学施設に在学する者	400円	360円
	その他の者	600円	540円
特別展示室	高等学校、高等専門学校、及びこれに準ずる教育大学施設に在学する者	1,600円	1,440円
	その他の者	2,400円	2,160円

○大阪歴史博物館条例施行規則

平成18年3月31日

(教) 規則第5号

大阪歴史博物館規則（平成13年大阪市教育委員会規則第34号）を次のように改正する。

大阪歴史博物館条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、大阪歴史博物館条例（平成13年大阪市条例第60号。以下「条例」という。）の施行について必要な事項を定めるものとする。

(博物館資料の寄贈等の申出)

第2条 条例第4条の規定により大阪歴史博物館（以下「博物館」という。）に条例第3条第1号の博物館資料（以下「博物館資料」という。）を寄贈し、若しくは寄託し、又は寄託した博物館資料（以下「寄託資料」という。）の返還を受けようとする者は、教育委員会の定めるところに従い、教育委員会に申し出なければならない。

(寄託資料の取扱い)

第3条 寄託資料の管理は、特別の契約がある場合を除き、本市所有の博物館資料と同じ取扱いとする。

2 寄託資料が災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷したときは、本市は損害賠償の責めを負わないものとする。

(利用料金の納付時期)

第4条 条例第14条第1項に規定する利用料金（以下「利用料金」という。）は、あらかじめ条例第5条第2項に規定する指定管理

者（以下「指定管理者」という。）が定める日までに支払わなければならない。

（附属設備の利用料金）

第5条 条例第14条第3項の教育委員会規則で定める附属設備の種類及び金額は、別表（省略）のとおりとする。

（指定申請の方法）

第6条 条例第16条第1項の規定による通知を受けた法人等（法人その他の団体をいう。以下同じ。）は、所定の指定管理者指定申請書に法人等の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先を記載して、教育委員会が指定する期間内にこれを教育委員会に提出しなければならない。

2 前項の申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

- (1) 定款又は寄附行為及び登記事項証明書（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）
- (2) 役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）の名簿及び履歴書
- (3) 条例第16条第2項の規定による申請（以下「指定申請」という。）の日の属する事業年度の前3事業年度における財産目録及び貸借対照表（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）。ただし、指定申請の日の属する事業年度に設立された法人等にあつては、その設立時における財産目録（法人以外の団体にあつては、これに相当する書類）とする。
- (4) 指定申請の日の属する事業年度における事業計画書及び収支予算書（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）
- (5) 組織及び運営に関する事項を記載した書類
- (6) 指定申請に関する意思の決定を証する書類
- (7) 条例第17条各号のいずれにも該当しないことを信じさせるに足る書類
- (8) 指定管理者の指定を行おうとする期間に属する各年度ごとの博物館の管理に関する事業計画書及び収支予算書
- (9) 博物館の管理の業務を安定的に行うことができることを示す書類

（資料の提出の要求等）

第7条 教育委員会は、条例第18条に規定する指定管理予定者を選定するため必要があると認めるときは、指定申請をした法人等に対し、必要な資料の提出及び説明を求めることができる。

（事業報告書の記載事項等）

第8条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第7項の

事業報告書（以下「事業報告書」という。）には、次に掲げる事項を記載し、指定管理者の代表者がこれに記名押印しなければならない。

- (1) 指定管理者の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先
- (2) 年度の区分。ただし、指定管理者の指定を受けた期間が当該年度の一部の期間であるときは、当該期間を併せて記載すること
- (3) 条例第20条各号に掲げる業務の実施状況
- (4) 博物館の利用者数その他の利用状況
- (5) 博物館の管理に要した経費等の収支の状況
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

2 指定管理者は、毎年度終了後（地方自治法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定の取消しを受けた場合にあつては、当該取消しの日後）2月以内に教育委員会に事業報告書を提出しなければならない。ただし、やむを得ない理由により当該2月以内に事業報告書の提出をすることができない場合には、あらかじめ教育委員会の承認を得て当該提出を延期することができる。

（損害賠償等）

第9条 博物館の施設の使用の許可を受けた者、入館者又は博物館資料について特別の研究若しくは貸出しの許可を受けた者が建物、設備又は博物館資料を損傷し、又は亡失したときは、教育委員会の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

（補助執行）

第10条 市長の事務部局の職員をして博物館の運営に係る事務を補助執行させることとした場合においては、第11条の規定中「教育長」とあるのは、「主管局長（大阪市事務分掌条例第1条に掲げる局及び室の長をいう。）」と読み替えるものとする。

（施行の細目）

第11条 この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
 - 2 大阪歴史博物館の指定管理者の指定手続に関する規則（平成17年大阪市教育委員会規則第26号）は、廃止する。
- 附 則（平成22年3月26日（教）規則第11号）
この規則は、平成22年4月1日から施行する。

運営組織

大阪歴史博物館は、公益財団法人大阪市博物館協会が指定管理者として、管理代行を行った。

組織

館長	栄原永遠男
統括学芸監兼副館長	伊藤廣之
総務課 課長	大対好行
課長代理	下澤英之
係 員	川端優子 安田 縁 山本幸恵 鈴木得記子 古賀寿生 三宅美智雄
企画広報課 課長	澤井浩一
企画広報係	係 長 松本百合子 主任学芸員 酒井一光 主任学芸員 李 陽浩 係 員 柴田晃子
情報資料係	係 長 加藤俊吾 主任学芸員 村元健一 係 員 飯田直樹 小林佳美 宮下愛子
研究主幹	松尾信裕

学芸課 課長	大澤研一
課長代理	豆谷浩之
学芸第1係	係 長 寺井 誠 主任学芸員 中野朋子 係 員 木土博成
学芸第2係	係 長 内藤直子 主任学芸員 岩佐伸一
学芸第3係	係 長 杉本厚典 主任学芸員 八木 滋 係 員 安岡早穂 柴田善美

人事

死亡退職（平成30年6月）	
企画広報課企画広報係 主任学芸員	酒井一光
退職（平成31年3月31日）	
統括学芸監兼副館長	伊藤廣之
学芸課学芸第1係 係 員	木土博成

大阪歴史博物館年報 平成30年度

令和元年 6月14日発行©

編集・発行 大阪歴史博物館

〒540-0008 大阪市中央区大手前4丁目1-32

印刷・製本 丸山印刷株式会社

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-4-16

ANNUAL REPORT
of
Osaka Museum of History
Jun.2019